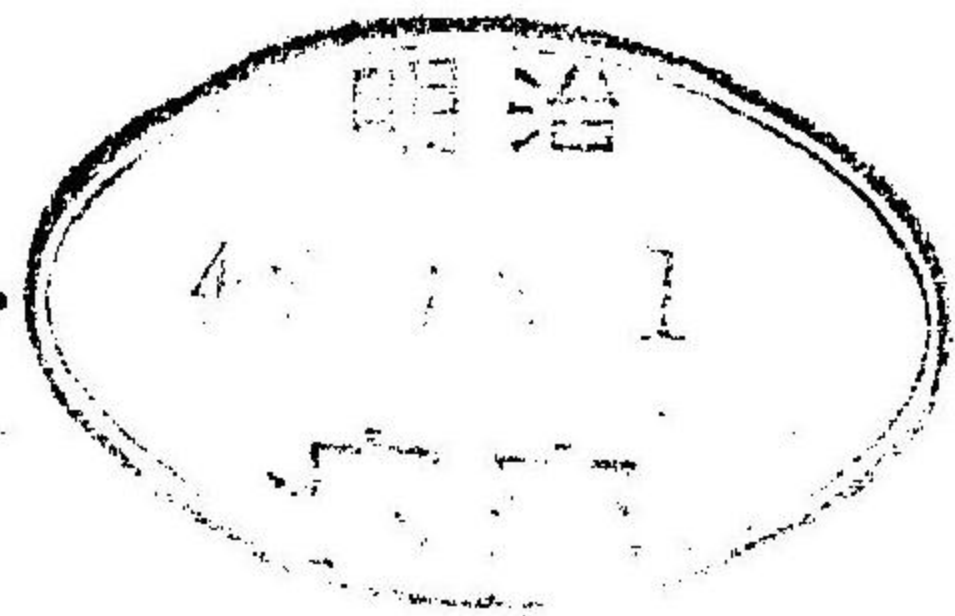


72-369

松永圃水著述

實業立法

全



序論

佛語に所謂善因善果惡因惡果なるものは獨り人間道德上の因縁結果を意味するのみでない、森羅万象悉く之に因つて表れて居る、最も近き例は吾人農家が常に實驗しつゝある種苗に就て斯言の人を欺かざるを見る、故に最も優美なる結果を得るに於ては之が因縁を爲す處の種苗は最も善良なるものを培養せねばならぬ。今や吾國東京を中心として到る處種苗專業者現ると雖多くは利益を先驅として、一意繁殖に従事する種苗生産者のみである。然るに現今農家の需用する種苗の十中八九は其供給を之等の種苗店より高價を拂つて受けつゝある、吾人は此等種苗店を悉く不信

用なるものと斷言するを得ざるも朴直なる農家の多數が廣からぬ庭園の一隅、田圃の畦畔を割愛して、或る遠大の目的に向つて栽植せられたる、大丹波栗が結果忽ち柴栗に化け米國パーバンク氏媒助の丹精に依り、改良せられたる新苗木として、非常な高價を拂ひたる、シューガーブルンなるものが野生に近き日本在來の李となるに至つては、吾人は農界の爲めに其不信用を絶叫せざるを得ないのである、縦し之等は多數の苗木を取扱ふ種苗店の誤送として強ひて諦め得るとするも、尙ほ忍び難き一例は。

種苗目錄の解説に依つて多額の苗木代金を振替貯金を以て送る爾后苗木堀取時期は來るも注文物は來ない、無止再三再四發送

方の督促をする、漸く春季發芽后に至つて荷物發送通知書と僅かの小包と到着する、披見すれば豈計らんや注文數の二分の一にも満たざる小數の苗木、然かも大半は注文以外の品なり、不審を抱き、通知書を見ると「御注文の苗木當春品切れ何々は代用品を送り何々は當秋落葉の期を待つて發送可仕」とある、代用品に困却せる注文者が又一層の迷惑を感じるは落葉時期の何年經るも來らざるのである。

茲に至つては最早恕すべからざる罪惡であるが、又翻つて之等農家の苗木に對する觀念を見るに、全く改良蕃殖の方法を了知せざるに起因するので、種苗の養成接木の研究等は多くは度外視して

農家の爲すべきもので無いもの、如く思惟せらるゝは、實に農界の爲めに遺憾とする事である、如斯年々生産地に向つて多額の代價を支拂ひつゝあるは、實に農村の不利益で農家に取りては經視すべからざる問題であるから、宜しく農村自治の局に當るものは、勿論一般農家の警戒奮發すべき事である。

彼の觀賞樹の如きは直接利益に關係薄きものであるから、暫く置き、杉、扁拍、の如き山林樹木類、桑、楮、の如き工藝樹木類、又は華果、桃の如き果樹類等の苗木は之を種苗店より購入したるものと更に自園に於て丁寧懇切に培養したるものとは實に比較にならぬ、就中最も甚しきは果樹類の苗木である、此等は苗の強弱のみ

ならず種類及び臺木に於て確かに安心の置かるゝものでない、假令種類、臺木に信用を置き得るとした處で所要の本数を悉く購買すると云ふことは經濟上不得策である、又更に吾人の恨事とする處は農家が從來漫然栽培し來りたる自生の果樹を田圃の畦畔或は其他の空地を利用して所々へ存在せしむるを見るも更に改良てふ方法を施さざるより試に之等の果實を口にせんか、忽ち噴出、嘔吐を催すが如き粗惡なもの、みで、甘酸口に適し美味にして將さに頬の落ちんとする底の品に至つては、實に曉天の星も齧ならずである、只一春の接木術に依りて改良すると否とは斯の如く其結果に大差を生ずるものである。吾人は之等農民を啓發するに於て

は技術の改良普及を以て先務なりと思ふ、蓋し技術改良の効全ければ事業の完全を保ち得べく事業安全にして收利全ければ其發展期せずして到るべきである、故に斯業専門の著書を世に出版せらるゝの多く且つ急なるを認む。

故に吾人の淺薄なる知識を以て世の誹謗を顧みず茲に此著の出版を急ぎたる譯である、基より限りある歳月を以て多數の苗木を驗したのであるから、何處迄も完全無缺の方法とは勿論斷言することを得ざるも、余は拾幾年間の實地經驗に徴するに幾何か世の補益となるを疑はざ

明治四十二年二月一日

著者識

●實苗木仕立法目次

○總論	一	三
●蕃殖法總論	二	〇
●實生法總論	二	六
一 採種法	二	八
二 貯種法	三	四
三 播種法	三	六
四 移植法	四	一
●插木法總論	四	九
五 床插法	五	一
全說明書		

實驗苗木仕立法目次

六	烟插法	全說明書	五三
七	芽插法	全說明書	五六
八	玉插法	全說明書	五九
九	割插法	全說明書	六一
一〇	伏插法	全說明書	六三
●	根生法總論		六四
一一	根分法		六六

實驗苗木仕立法目次

●	接木法總論		七四
●	高接法總論		八〇
一五	接蠟紙製法		八四
一六	割接法		八八
●	全說明書		八九
一三	株分法	全說明書	六八
一四	壓分法	全說明書	七〇
一五	木分法	全說明書	七二

實驗苗木仕立法目次

一七	皮接法	九〇
	全說明書	
一八	水接法	九二
	全說明書	
一九	寄接法	九四
	全說明書	
	●根接法總論	九八
二〇	切接法	一〇三
	全說明書	
二一	搭接法	一〇七
	全說明書	
二二	舌接法	一〇九

實驗苗木仕立法目次

	全說明書	
二三	合接法	一一一
	全說明書	
二四	鞍接法	一一三
	全說明書	
	●芽接法總論	
二五	丁字形芽接法	一一六
	全說明書	一二〇
二六	上字形芽接法	一二四
	全說明書	
二七	十字形芽接法	一二七
	全說明書	

●附錄年中行事曆

二八	皮芽接法	全說明書	一二九
二九	管芽接法	全說明書	一三一
三〇	T形芽接法	全說明書	一三四
●結	論		一三七
●附錄年中行事曆			一四一

●實驗苗木仕立法目次終

●實驗苗木仕立法

●總論

松永圃水著

今や吾國は文に武に世界の強國に比肩し寧ろ凌駕するに至つて居る、隨つて外人雜居も年一年と増加すると共に世界の天變は滄々として經濟的に傾き各人之れが爲めに利益の獲得に吸んとして奮闘せざる可からざる時勢となつて居る、斯る多忙なる世に處しては從らに優柔不斷として衣食住の華美を售ふ時でない、宜しく實業を鼓吹し實行すべき秋である。

農は國の生命で、諸氏は農事的主人であるから、實業中の實

業は實に諸氏の着手に待つべきである。幸にして吾國は氣候温和地味膏腴造林に適する土地多く到る處果樹の適地でない處は殆んどない、故に造林にあつては松、杉、扁柏、檜、檜、樟、其他桑、桐、楮、三椏、等荷も地方必適の種類にして利益あるものと認めたら將來の需用は吾國のみでないから躊躇するに及ばない、就中養蚕の如きは殆んど國の命脈と爲つて居る、隨つて之れが經營は實に吾國戦後の經營に要する國費の膨脹に應ずるの途であるから、斯業の根元たる桑苗の仕立は現人尤も急を告げて居る。

其れから果樹類の如きは桃、栗、葡萄、華果、梨、密柑、無花果、枇杷、杏、石榴、榲桲、柿、胡桃、李、牡丹、杏、巴且杏、梅、櫻、桃、茶、菓、須具利、等荷くも適地と認めたら之れが蕃殖に改良に宜しく時機を失

せぬ様着手すべきである。

從來吾國民の果實に對する觀念非常に薄く多くは天然の自生に托せ花粉媒助の如き根本的種類の改良等は夢にも知らず偶奇品良種の存在するのは實に偶善の結果に外ならぬのである、處が自然學術の進歩するに隨つて果實は食物の消化を補け最も衛生に適したるものであると云ふ事が認められ洋食の進むに連れて食膳に果實の必要を感ずる様になる、斯様にして需用は世の進歩と供に益々非常なる勢を以て増加する、左様なると天然の結果を待つが如き放任主義では世の需用を供給する事が出来ないから、忽ち需用供給の平均を失し果實の價格が暴騰する、西洋林檎の如き非常に高價なるものも盛んに賣れて更に販路に困ら

ない、如斯經歷を有して漸く世人が果實に對する觀念を厚くし、果樹植栽の利益に注目するに至つたのである、吾人農界の爲めに喜ふ可き現象であると思ふが、又此際に乘じて各所に苗木專業者勃興して、不良租悪の品を以て暴利を貪るを見ては聊か愁肩の感を覺ゆるのである。全体樹木の栽培は林木と果木を問はずして、彼の穀物野菜の如き僅々一ケ年にして利益を觀るものでない、苟くも二三年長きは殆んど百年の長計を企圖する事業であるから其苗木の如きは勿論自ら仕立るに若かざる事は吾人が茲に喋々する迄はない。

である、而して余が多々年實地經驗に徴し確實と認めたる技術を集輯して、左記の如く三十種に至りたるを以て、命名して驗苗木仕立法と爲し世の所要に應ずる事にしたのである。

● 蕃殖法總論

蕃殖法とは有用苗木の仕立法にして、即ち林樹、果樹、觀賞樹等を包含するものである、之れが仕立の方法も古來より慣行し來りたるもの又は近時改良せるもので、或は種實を播下し枝梢を挿木にし又は根分、株分等種々あるが各々其蕃殖の方法を異にして居る。

畢畢此蕃殖方法を異にする所以のものは他なし、各種の樹木能く其本來の性質を異にするのみならず、又社界需用の目的を異にする故である、元來林樹なるものは、多くは其材を需用に供するものなるを以て、之れが蕃殖の方法も、樹木の命數長くして能く速かに生長する實時苗に依るを最も容易且つ便利とする、果樹類の如きは、之れが需用の目的物

が其結成せる果實に在るを以て、余り大樹となるを要せず随つて命數のみに重きを置かない、故に種實を容易に得られ尙ほ實時にして速かに成長するものを除く外は挿木或は根分に依つて仕立るも能く適當の方法を施せば余り害あるを認めず、殊に果樹の或るものは其種子を得るに容易ならず、強ひて之れを採收するとすれば非常な多額なる種子代を拂はねばならぬ、基より吾人農家は常に經濟てふ者の支配を受けつゝあるものであるから、種子代を多く支拂ふと云ふ事は得て爲すべき事でない、又枯木に供する場合は實生のものより其養成年度の短かきもので然も一層蕃殖の迅速なるものがある。

如斯各種の特性に應じ能く自己の目的に向つて適切なる

法立仕木苗驗實

櫻梅壯巴李胡柿榲柘杏枇無
 丹且
 桃杏杏桃棹榴杷果

插插插插插實實插插插實插
 木木木木木生生木木木生木
 法法法法法法法法法法法法

實實實實實 | 根根實插根
 生生生生生 | 生生生木生
 法法法法法 | 法法法法法

根根根根根株株實實根根實
 生生生生生分分生附生生生
 法法法法法法法法法法法法

法立仕木苗驗實

柑梨林葡栗桃種
 橘檜萄類

實插插插實實主
 生木木木生生用
 法法法法法法法

實實根 | 插兼
 生生生 | 木用
 法法法 | 法法

根根實 | 根行
 分分生 | 分ひ
 法法法 | 法得
 法法法 | 法ら
 法法法 | 法る
 法法法 | 法

果樹類

何れの方法に依つて仕立得べきかを指示せんとす。
 大別して實生法、挿木法、根生法、の三種とし各種有用苗木の
 方法を行ふを以て技術者の本分とする、故に余は蕃殖法を

法立仕木苗驗實

林	扁杉	南木	紅花	海花	躑躅	花	茶
	柏	天瓜	葉	櫻	棠	躑躅	梅
實生法	實生法	插木法	實生法	插木法	插木法	插木法	實生法
		株分法	根分法	實生法	根分法	根分法	插木法
插苗法	插苗法	實生法	實生法	根分法	實生法	實生法	根分法

法立仕木苗驗實

觀賞樹類	花椿	花	薔薇	櫻	梅	杏	檀
	桃	梅	薔薇	櫻	梅	杏	檀
實生法	實生法	插木法	插木法	插木法	插木法	插木法	插木法
		插木法	插木法	實生法	根生法	根生法	根生法
根分法	根分法	根分法	根分法	實生法	實生法	實生法	實生法

法立仕木苗驗實

楮 桑 漆 桐 ア 松 櫛 櫛 櫛 櫛 櫛 櫛

スナロウ

● 實生法總論

楮	桑	漆	桐	ア	松	櫛	櫛	櫛	櫛	櫛	櫛
根分法	實生法	實生法	根分法	插木法	實生法	實生法	實生法	實生法	實生法	實生法	實生法

插木法	插木法	根分法	實生法	實生法						
-----	-----	-----	-----	-----	--	--	--	--	--	--

實生法	根生法				插木法					插苗法
-----	-----	--	--	--	-----	--	--	--	--	-----

法立仕木苗驗實

凡べて働物、植物共に自分の同種類即ち子孫を蕃殖する爲めに各々特種の器能を備へて居るものである、吾人は培養しつゝある林樹及果樹、觀賞樹等も勿論此機に依り自然に花を開き果實を結ぶ、一果にして澤山種子を有するものは能く風媒に依りて遠隔の地へ蕃殖する、而して余り種子の多からざるものは其仁肉に動物の嗜好する特殊の味を附し之れ等を介して能く數千里の異域にも蕃殖し得る處が有用植物を同時に澤山蕃殖すると云ふ場合は彼の風媒に依りて山野に自生し、又は人獸を介して偶然自生するが如き迂遠なる蕃殖に依頼し得べきものでないから、茲に始めて實生法の必要を生ずるのである。

元來種子の地下に於て甲標すると云ふには、是非とも温度

と水分と酸素とが丁度適當でなくてはならないから、風媒
に依り地上に種子を下す數は種類によりては一本實に數
千萬なるも計り知られざる程多數なるも、自然樹下に發芽
せるものは僅々千万分の一にも足らないと云ふのは、畢畢
温度、水分、酸素の適量を偶然に供給せられたるものを除く
外は悉く乾燥腐敗等に因つて發芽力を失つた故である。
其處で播種に依つて苗木を得るには能く各種の性質を知
り之れに適應する方法を以て取扱はなければならぬから
種子の採收、貯藏、播種の方法も随つて相違する譯である、故
に實生法を更に小別して採種法、貯種法、播種法、移植法の四
種として説明しようと思ふ。

一 採種法

苗木を養成するには豫め種子を吟味すると云ふことは甚
だ大切である、處が林樹類の内殊に杉、扁柏の種子を取寄せ
る場合に於ては往々世人は吉野杉の名聲に惑はされ何ん
でも杉、扁柏の種子は吉野地方より取寄せさへすれば生長
が速かで發芽力が多いかの如くに思はれて居るのは實に
大なる間違である、如何となれば斯様な處では全國より注
文する澤山な種子を採收して賣却するのであるから仲々
一箇人の能く爲し得べき事でない、故に一々何程と云ふ約
束にて數多の人の手より買集して各所の注文に應ずるの
で基より營利的であるから、不良の品を混合すると云ふ様
な弊害を生じ易ひ故に少量の注文になると不良粗悪の品
が多い、元來杉、檜は若木又は下枝等に附着した種は非常に

生長が悪いと云ふ、又昨年播種すべき種子即ち三年種子は
非常に發芽力を害して居る。
其處で杉、檜は必ず吉野地方のものに限つた事はないから、
地方に適當の大樹が在つたら杉、檜は勿論其他林樹類の種
子も適當の方法を以て採取すれば良いのである、殊に果樹
類になると其種子が乾燥すれば、大底發芽力を減し或は全
く發芽せざるに至るものであるから、余程吟味を要するの
で寧ろ他人に托すべきものでない。
全体苗木の種類は各種共其用途が同一でないのみならず
其性質が一樣でない、随つて其熟果の期節が相違するから
之れが採收の方法も亦異らざるを得ないのである、故に同
一の方法を以て採收し得べきものは一括し、其他は各種に

就て説明する。
梨、林檎、華果、榲桲、櫻桃、李、杏、巴旦杏、牡丹杏、梅、枳殼、柚子、枇
杷、葡萄、櫻、石榴、胡桃、薔薇等の如き種子は完全無病なる種子
で尙ほ十分熟したるものを採收する、而して其果實を土間
に堆積し置き自然に爛熟するに至るを待つて之れを取り
出し、肉と核とを分離して之れを水で洗滌せねばならん、其
れは仁肉の附着せるものを貯藏して置けば、其肉仁の爲め
に多くは腐敗するのみならず全く發芽力を失ふ故である、
尤も離核桃の如き種子の離れ易き種類は久しく放置爛熟
せしむるに及ばない、直ちに肉と核とを分離するが簡易で
ある、
櫻、檜、栗、櫛等の如き種類は秋季土用后自然に成熟落果した

法立仕木苗驗實

るものを拾ひ蟲害に罹らざる子實のみを撰別し尙ほ一晝
夜水中に浸し然る后之れを取出し皮外の水を乾すのであ
る。
松、杉、扁柏等は秋土用前後其果實の成熟して茶褐に色付き
未だ口を開かざる時之れを竿鎌等を以て採收し蓆に擴げ
て二三週間(松は數日間)日光に乾し鱗果の口を開くを見、棒
又は槌を以て打敲き唐箕等にて二三度簸返し尙ほ二三日
間乾かすのである。
槭樹は秋季土用后其紅葉する時羽根ある種子を採收し暫
時陰干にする。
樟は十一月上旬に熟す種子は極輕小なものであるから飛
散し易ひ之れを採收するには其樹下へ蓆を敷きて打落す

法立仕木苗驗實

のである。
漆は秋土用后其垂下せる穂を切り取り二三日間日光に乾
し臼で軽く搗き外皮を去る而して熱湯三舛に木灰五合を
溶きたるもの、内へ種子一舛を浸して能く洗滌して子仁
に附着したる蠟を除去して尙ほ米汁にて能く洗ひ十分蠟
分を取り少し外皮を乾燥せしむるのである。
椿、茶梅、三極は秋季土用后其成熟せるものを採收する
之れは別に洗滌する必要はない。
桐は十月下旬より十一月上旬頃鈴状の種實の皮茶褐色に
變じ殆んど口を開かんとする時之れに先立て採取する而
して一週間位も日光に乾すと外皮が分裂するから種子を
出し尙ほ四五日間陰干にする。

二 貯種法

以上の如く所要の種子を採收して洗滌、撰別等の手入が出来たならば、洗滌又は浸水したものは水を滴らして蓆に擴げ暫時乾し、稍々水分を除去するのである。而して直ちに梨、林檎、榲桲、石榴、桃、李、杏、巴旦杏、牡丹杏、梅、柿、枳殼、柚子、枇杷、櫻桃、葡萄、胡桃、栗、榲桲、槭、楓等の種子は之れを其儘肥料分の無き細土か又は山野の底土で赤土の如き肥分の無き土を一日間風に晒し、稍々濕氣を去る而して之れを其種實と混和して箱又は瓶の如きものに入れて土窖に貯藏するのである。

又室外へ貯藏しようと思へば、先づ畑地ならば極乾燥せる土地、庭園内ならば排水宜しき所で水の停滞せぬ所を撰

び深さ二尺—三尺の穴を掘る(廣狹は種子の量に依る)而して之れに貯藏せんとする種子を一列に入れて上に土を細かく碎ひて入れる。又種子を一列に入れる、細土を掛けて壓し付ける、斯の如く毎層土を混じて深く埋藏し最後に水の停滞せぬ様土を少し高く盛り上げ堅く締めて置くのである。

亦少量のものは土を混合して箱又は瓶に入れたる儘地下二三尺の底に埋藏し上を堅く踏み締めて置くのである。

松、杉、扁柏、桐、榲桲の如き種子は其儘厚紙袋杯に入れ、空氣の流通の宜い所に貯へ置くので温濕なる空氣に遇はさない様にすれば良い。

三極、櫨の如きは棕櫚又は古蔴に包み日受能き土中に貯藏

法立仕木苗驗實

之等には乾砂を混合して蒔く、其他何れの種類も小粒の種子で蒔くに困難であるものは細土又は乾砂を混合し其容量を多し蒔く時は能く均一に播下する事が出来るものである、蒔き終つたならば如何なる種類も后ちに必ず板又は鉄等を以て鎮壓すると云ふことを忘れてはならぬ、而して后細かき目の篩を以て焼土を混合せる細土を篩ひ懸ける、此被土の如きも播種量と同じく小粒のものは見へ陰れ位大粒のものは一寸位と云ふ様に其種類に依りて厚薄の加減をせねばならぬ、其れから被土が濟んだならば又更に板を以て押し付け其上に粗糠を薄く散布し藁を布きて湿気を保持せしめ過度の乾燥を防ぐのである、又日々床場を臨験して常に床土に適當の湿氣を得せしめ乾燥する時は

法立仕木苗驗實

上より如露を以て灌水する如斯注意して行れば安全に發芽するものである。
發芽を始めたならば陰庇を付すべきものは、速かに被ひ藁を取除き直ちに日覆をするのが良い、其れは先づ竹又は木を以て高さ一尺五寸乃至二尺位な棚を造り其上に薄く藁を載せる、尤も夜間は取除に便利なる様にすれば都合が良い、而して後發芽後は時々薄き人糞尿を施し雜草を除去するのである。
其れから發芽后陰庇を付す必要なき種類に在りては、播種后切藁を薄く散布し置きば發芽に先立つて取除くに及ばないから其儘にして置き晴天打續く時は乾燥を防ぐ爲め如露を以て時々灌水すれば良い、其からは雜草を抜き取り

元來苗木の移植即ち床替は其狹隘なる床面積を廣くし各
 稚苗をして能く成育の余地あらしめ尙ほ髮根を多く生せ
 しむるものである。故に柿、栗、葡萄の如き床替を嫌ふ性質の
 ものを除く外は悉く行らねばならぬ。尤も枇杷、密柑、無花果、
 櫻、スグリ、杉、扁柏、檜、松、樟、桐、椿、茶梅、楓等の如き成長遅き種
 類に在りては翌春之れを行ひ其他成長の速かなる種類は
 既に其年三四寸—五六寸に成長して床面の狹隘を告ぐ様
 になるから曇天にして風なき日を撰び稚弱なものは根頸
 に疵の附かざる様叮嚀に可成移植、鏝又は竹筥の如きもの
 を以て床面の一側方より順次苗を掘り取り大中小の三等
 に分ち凡る五十本—百本の束となして一方へ假植し置
 き掘り終らば其直根又は徒長根を切截し豫て施肥整地を

爲し置きたる床地又は畑地へ各種に應じて適宜の距離に
 移植するのである。
 殊に果樹觀賞樹の常盤木苗の如きものは可成移植の時、根
 の土を落さぬ様叮嚀に掘り取るを要す。
 移植が修了したならば地上へ粉糠又は切藁等を稍々厚く
 散布して水分の蒸發を止め一方雜草の繁茂を防ぐ、斯様に
 して翌春の山行苗、又は接台に供し得べき種類は秋季落葉
 后之れを掘り取りて假植し置く、又養成年度の長き種類は
 勿論或長の遅れたる、苗は爾后毎春斯様にして移植するの
 である。
 左に参考の爲め各種有用苗木の養成年度を示す。
 移植欄内一年とせるは播種の年五六月移植するので其他

法立仕木苗驗實

茶	櫻	梅	牡丹	牡丹	李	胡	柿	榎	柘	杏	枇
菓	桃	杏	杏	桃	棗	榴	杷				
一	一	一	一	一	一	二	二	一	一	二	
年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年
	一	一	一	一	一	二	二	一			
	年	年	年	年	年	年	年	年			
三	二	二	二	二	二	二	三	三	三	二	三
年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年
四	三	三	二	二	二	三	四	三	四	三	四
年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年
			三	三	三			五			
			年	年	年			年			

法立仕木苗驗實

無	柑	梨	林	葡	栗	桃				
花	橘	檣	萄							
二	二	一	一			一				
年	年	年	年			年				
	二	一	一			一				
	年	年	年			年				
二	四	二	二	三	二	二				
年	年	年	年	年	年	年				
三	五	二	三	三	三	三				
年	年	年	年	年	年	年				
	五	三		四						
	年	年		年						

果樹類

苗木養成年度

は翌春行ふのである。

移植

芽接台

根接台

定植又山行苗

法立仕木苗驗實

檜	櫻	榎	桐	栗	ア ス ナ ロ ー	縦	扁	杉	松	林 樹 類	端 香
二 年	二 年	二 年	二 年	二 年	二 年	二 年	二 年	二 年	二 年		二 年
									三 年		三 年
五 年	四 年	二 年	二 年	二 年	三 年	三 年	三 年	三 年	四 年		三 年

法立仕木苗驗實

三楮桑漆桐

楮	二 年	二 年	二 年	一 年	二 年
---	--------	--------	--------	--------	--------

		二 年			
		二 年			

二 年	二 年	三 年	三 年	四 年
二 年	二 年	三 年	三 年	四 年

●挿木法総論

挿木法なるものは同種蕃殖の方法中實生法に次ぎて便利
 で古來より最も多く用ゐられたる法である、全体挿木法に
 依つて仕立てたる苗木は樹の命數に於て實生苗木に及ばな
 いから山林用樹の苗木は或る特種のものを除く外は大底
 實蒔法の勝れるに若かざれども果樹及觀賞樹の多くは扞

挿に依つて仕立るのが便利である、處が此果樹及觀賞樹の枝を挿挿に依つて能く各種を通じて悉く蕃殖し得るとすれば實蒔と接木を同時に施行した譯であるから最も簡便に蕃殖改良が出来て甚だ都合が良いが挿木と云ふ奴は、そ
甘く行くものでない、尤も柳、アスナロウ、薔薇、スグリ、葡萄、無花果の如き種類は余り乾燥せない處なれば大底何處でも活着する、其れから他の觀賞樹になると陰庇を付したる床場を設け各々特殊の手當をして行らねば活着せぬ、又他の果樹類になると幾ら床場を設け綿密周到なる注意を拂つて行つても枝を挿木にしたのでは仲々容易に活着するものではない、斯様なものには一旦實生苗を養成せねばならぬ、一二年生實生苗で其根頸を去ること遠からざる部分

を挿挿すれば大底活着する。如斯各種樹木の性質の異なるに随つて發根の場所と部分を異にするから挿木法も亦各種の性質に適應した方法を施さねばならぬ、故に挿木法を床挿法、畑挿法、芽挿法、玉挿法、割挿法、伏挿法の六種に小別して説明する。

五 床挿法

床挿法は一定の苗床を設けて挿挿する法である、之れに供する種類は専ら觀賞樹の苗木であるが多數の種類を蕃殖する即ち苗木養成を専門の業とするものには果樹、觀賞樹共に此方法に依つて苗木を仕立つる方が得策である。故に果樹は柿、栗を除くの外は悉皆此法に依つて行はる、事は勿論觀賞樹も梅、桃、櫻、松、杉、栂、樟、瑞香、椿、茶梅、南天、薔薇等

法立仕木苗驗實

施行して便利である。
 床の拵へ方は先づ肥沃なる壤土にて乾濕の過度ならざる
 畑地を鋤耕して之れに十分肥料を施す而して巾三尺長さ
 適宜の畦を劃す更に砂と赤土を客土に入れて打返し能く
 細土と湿合し鉄を以て上を平坦に均整するのである。
 挿穂の拵へ方は先づ扞挿すべき枝幹を切り來り長さを五
 六寸——一尺位に両端を切り去る(尤も常盤木の類は上端は
 切去るに及ばず)其切断面は鋭利なる小刀を使用して極平
 滑に削るのである。
 穂木が出來たならば棒又は竹を細く削りたるものを以て
 豫め二三寸——五六寸の距離に床面へ穴を穿ち之れに穂を
 深さ二三寸——五六寸位挿入して根元を指頭で押し付けて

畫明說法挿床



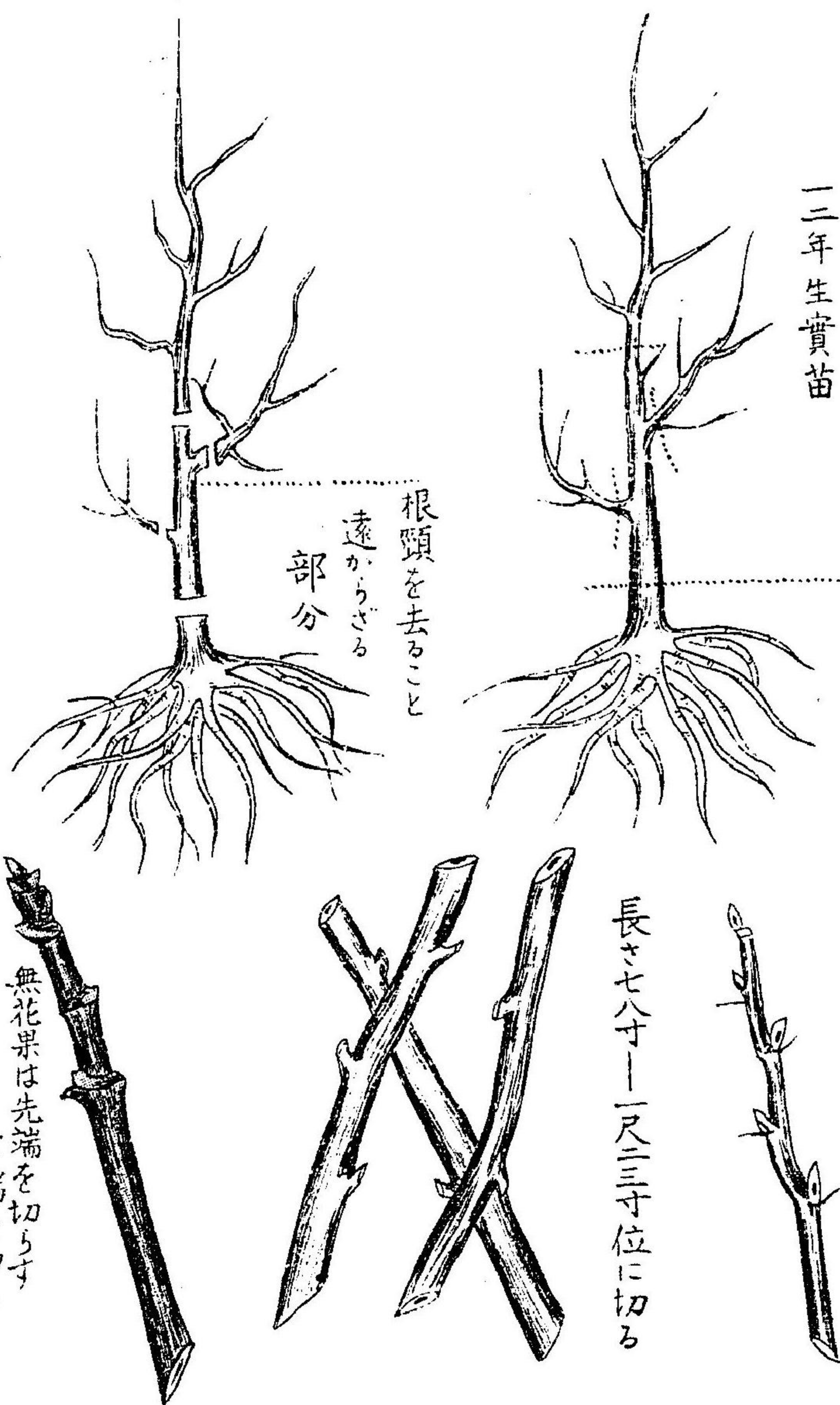
二年生實苗

切取線

根頸を去ること

遠からざる

部分



置く。

挿木が終つたならば一尺五寸—二尺位の高さに莖或は葎の如きもので日覆を施し床面を乾燥せない様に注意すれば晩秋の頃には既に自活する位になる、其時に日覆を取り除き時々水肥を施して成長を促すのである、其れから降霜の候になれば今度は霜覆をして遣は安全に冬を経過するから翌春の成長が早い(尤も落葉樹は葉を除く外此覆は要らない)多くは二年にして適當な臺木となる。

挿木の期節は薔薇、スグリ、は春夏秋を通じて行ふ事が出来るが其他の観賞樹は梅雨前より梅雨期中を以て好期とし果樹は三月上旬より下旬迄を好期とする。

六 畑挿法

法立仕木苗驗實

畑挿法なるものは別に挿木床を設けずして直ちに畑に挿する法で現今の苗木生産地で果樹の臺木を養成するに専ら此法を行ふのである、尤も葡萄、無花果、スグリ、桑等の如き生着し易き種類は臺木の目的に向つて扦插するに及ばず直ちに苗木として挿木蕃殖するも差したる害を見ないのみならず接木を爲す手数を省き最も管便である。林檎、梨、桃、李、櫻桃、梅、杏、枇杷等は三月上旬より四月下旬迄此法に依つて挿木を行ふことを得る、全休挿木は暖地に在つては秋季落葉后から翌春發芽迄何れの時期にも施行せらるゝが寒地では左様行かないから可成春季融雪后より始めて芽出前迄に終ると心得れば良い其れは寒地て秋季挿木をすれば降雪の爲めに挿穂を廻はし又は寒氣の爲め

法立仕木苗驗實

に凍傷を被むり濕潤の爲めに腐散する等種々なる被害があるからである。葡萄、スグリ、無花果等を除く外は概して其枝梢を截切して之れを扦插したのでは其活着困難であるのみならず全く發根せないものが多い、故に挿木をするには一旦實蒔を行らんければならぬ、穂木は何れも臺木用の目的に向つて播種せられた一二年生實生台木の接臺として切り去りたるものを七八寸—一尺二三寸位に其端未を切り根の方も利刀を以て平滑に斜に両方より削つて捺へる、而して捺へたる穂は之れを麥畑の畦溝中に四五寸内外の距離を置き一列に深四五寸位に挿込み能く踏み付けて置く。而して後は麥を刈り取るまでは別に手入は要らぬが麥を

菊り取つたならば、先づ除草を爲し肥料を施すのである、斯様に注意して行れば其年十分成長して鬚根を澤山生ずるから秋季落葉の期を待つて悉く掘り取り發根十分ならずるものは更に翌年培養し發根の十分なるものは別に假植し置いて翌春の接臺に供するのである。
如斯して一旦苗木を拵へれば爾后毎年同一の方法で挿木が出来来るから實時を爲さずとも速かに蕃殖することが出来る。

七 芽 挿 法

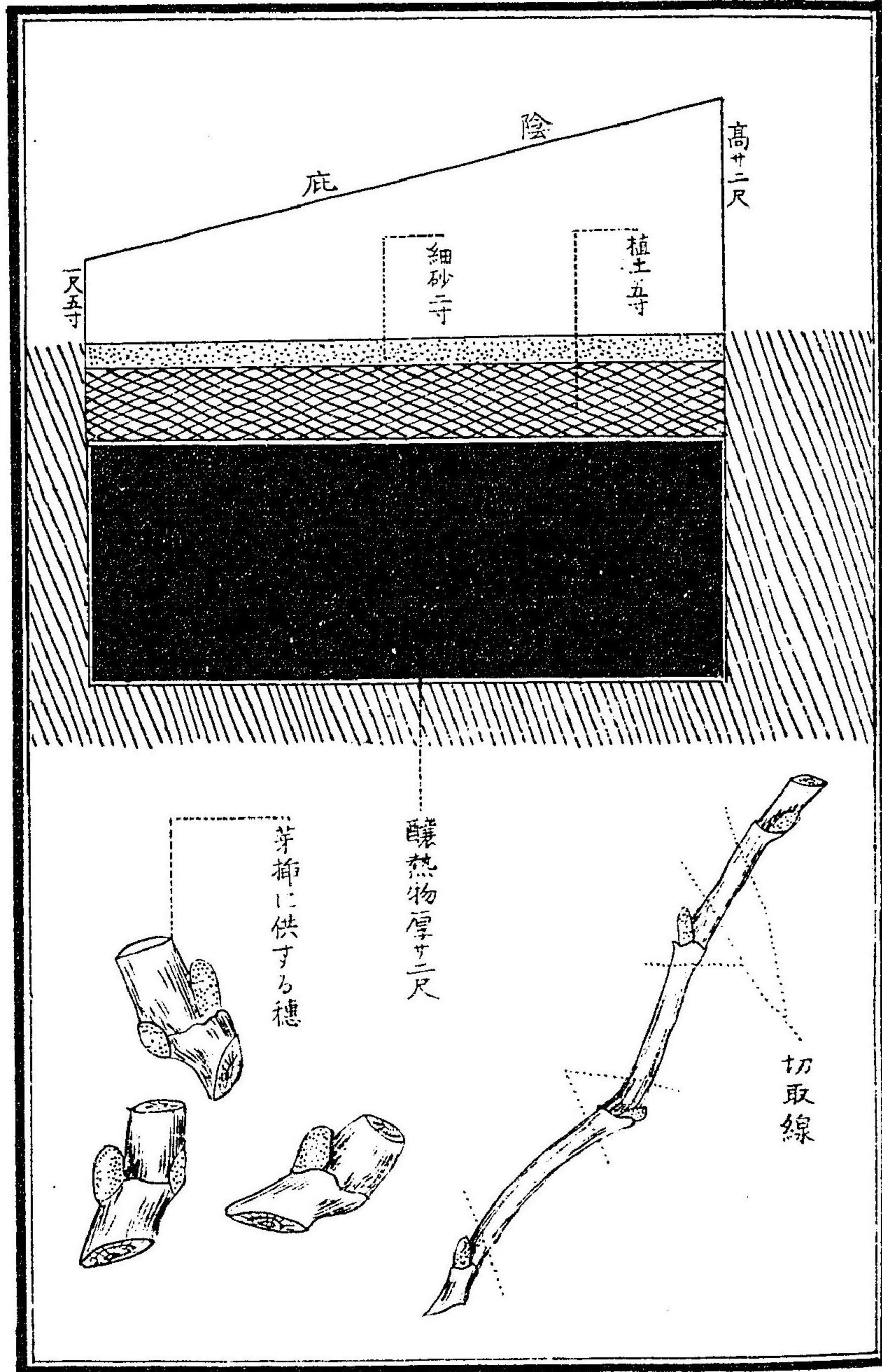
此芽挿法は専ら葡萄に行ふ法である、葡萄は能く各種の蕃殖法に適するので別に煩はしき事はないが小數なる良種

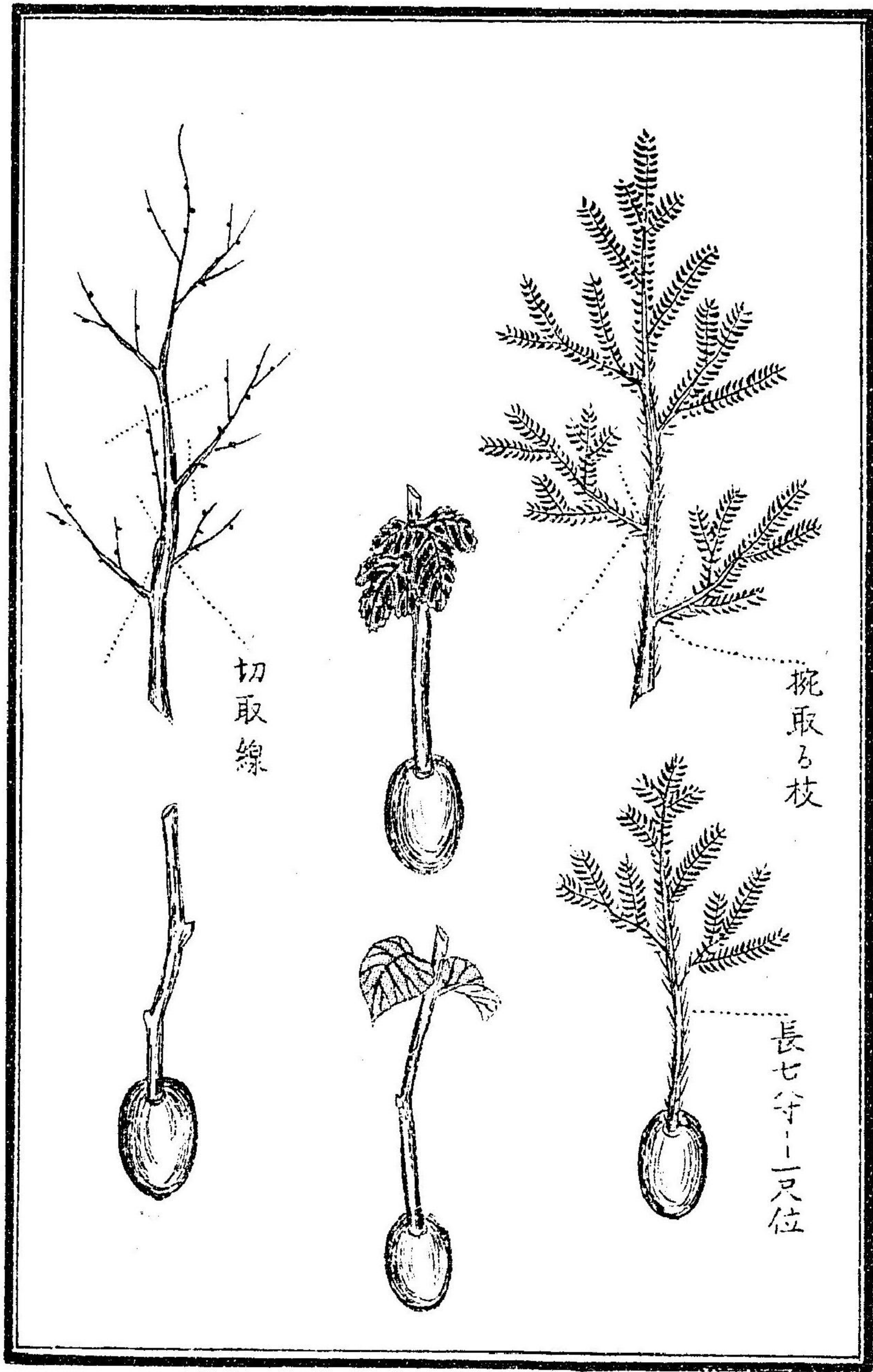
の穂を一時に澤山殖したいと云ふ場合に於て此法は最も適當なる行り方である。
其法先づ挿床を造らんければならぬ、即ち豫め其挿穂の數に應じて適宜の幅に深さ三尺位の角形の穴を掘る而して其れに馬糞、麩、青草、塵芥、米糠、木葉等を深さ二尺位堆積し之れに適宜の濕氣を與ふれば日ならずして非常の醱酵熱を起すものである、此が即ち挿木の發根を促す處の溫度を供給する基であるから其蒸熱物を入れたならば直ちに二三寸位植土を入れる又更に細砂を盛ること二三寸位にして其砂面を平坦に均して置く。
而して五六日間を経てから前年伸長した葡萄蔓を切り來り芽の存在する節を中心として利刀を以て長さ一寸位に

法立仕木苗驗實

短切する其れを二三寸の距離に苗床の細砂中へ扦插する
 のである。
 其から上には高さ一尺五寸——二尺位な蔭庇を備へて置か
 ねばならぬ、先づ床面の四方へ長さ二尺——二尺五寸位の杭
 を打込み之れへ木又は竹を以て横を結び付け其上に莖又
 は葭簀の如きものを以て日覆を爲し周囲も又藁莖等を以
 て風の烈しく流通せぬ様垣をする而して時々濕氣を供
 給して行れば安全に發根萌芽するものである。
 發芽を始めたなら二三寸に伸長する迄は晝間は覆を爲し
 夜間は之れを取除き苗を強剛に成育せしめ最早陰庇を取
 除くも萎凋衰弱の憂が無ひと認めたら徐々に取り去る
 ので決して一時に取除けてはいけなない。

畫明説法挿芽





陰庇を取除いてからは除草施肥に注意すれば秋期迄には
 深山な鬚根を生着せしむるものであるから冬期の被覆は
 必要なく翌春更に移植して肥培すれば二年にして良好の
 苗木となる。

八 玉挿法

玉挿法は發根極めて困難なる貴重な種類に行ふに最も良
 き方法である之れは普通の挿木とは違つて玉を着けて植
 込むのであるから床場を設くる必要がある。
 其法先づ苗床にせんと欲する畑地を前年の秋又は冬之れ
 を能く耕し若し粘質の土地ならば少量の砂を混合し寒氣
 に晒して置く而して翌春三月上旬頃更に打返して土を細

かに破砕し、町幅に木片、塵芥、小石等を取除き、幅三尺長さ適
宜の畦を造り、床面を均整する。其れから穂は床挿法及畑挿
法に於て陳べた様に七八寸乃至一尺位の長さ、に切り、其切
断面を利刀を以て平滑に削り、其根元へ玉を挿入するので
ある。
玉の製法は斯様にする。豫め山野より肥料分の無き赤粘土
を掘り來り、少量の水を加へて、能く練る而して練り上げた
る土を一握り、づ一階圓形の玉に所要の數丈、拵へる、全体
此赤粘土は樹木の發根を最も容易ならしむるものである
から、挿木には之れを使用するに限る、而して玉を挿したる
穂は之れを直ちに床場に運び、二三寸位の距離を置き、一列
に植込み、上を固く締めて置くのである。

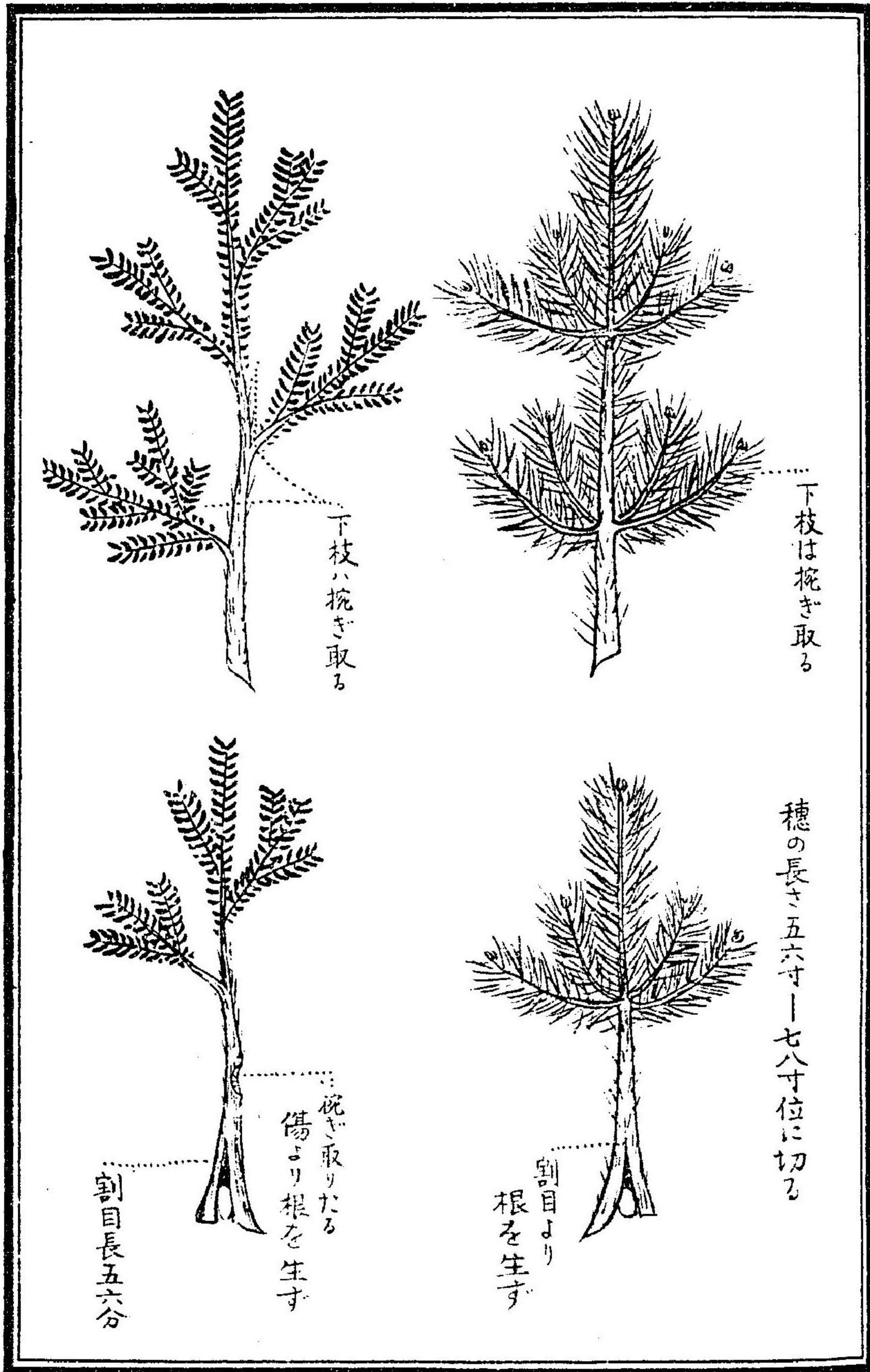
其れから尙一層活着を確實ならしむるには、上に一尺五寸一
二尺位の高さの日覆をしてやる。斯様にすれば、強烈なる陽
光を遮ぎる内に、赤粘土は常に適當の濕氣を挿穂へ供給す
るから、萎凋衰弱の憂なくして、安全に發根萌芽するもので
ある。

九 割 挿 法

此割挿法を行ふにも、又豫め床場を設けねばならぬ。其法先
づ苗床を設けんとする畑地を前年の秋期又は冬深く鋤耕
し、之れに山野の赤粘土を掘り來り、細かく碎きたるものを
混合し、鋤を以て能く反轉して、植土と親和せしめ置く。
其れから翌春三月下旬頃になりて、又更に打返し幅三尺五

寸長さ適宜の畦を劃し表土五六寸の土塊を打碎き木片塵芥を取り除き整然に均して置く其れから挿穂であるが全體此割挿法を行ふには専ら松、杉、檜、樺、金松等の如き脂の多き種類に施すものであるから随つて挿穂を拵へるには葉の附着せるものを其儘採らねばならぬ。

先づ五六寸—七八寸の枝梢を切り來り其下部を利刀を以て平滑に削る、而して穂の大なるものは下端より六七分の處まで四つに小刀を以て割り少なるものは本より五六分の處まで二つに割り其間に大凡そ大豆大位に堅めたる赤粘土の玉を挟み之れを豫め拵へ置きたる床へ五六寸の距離を置きて植ね込み上を堅く締めて置くのである、而して上に高さ二尺位の莖又は藁を以て日覆をしてやれば一層

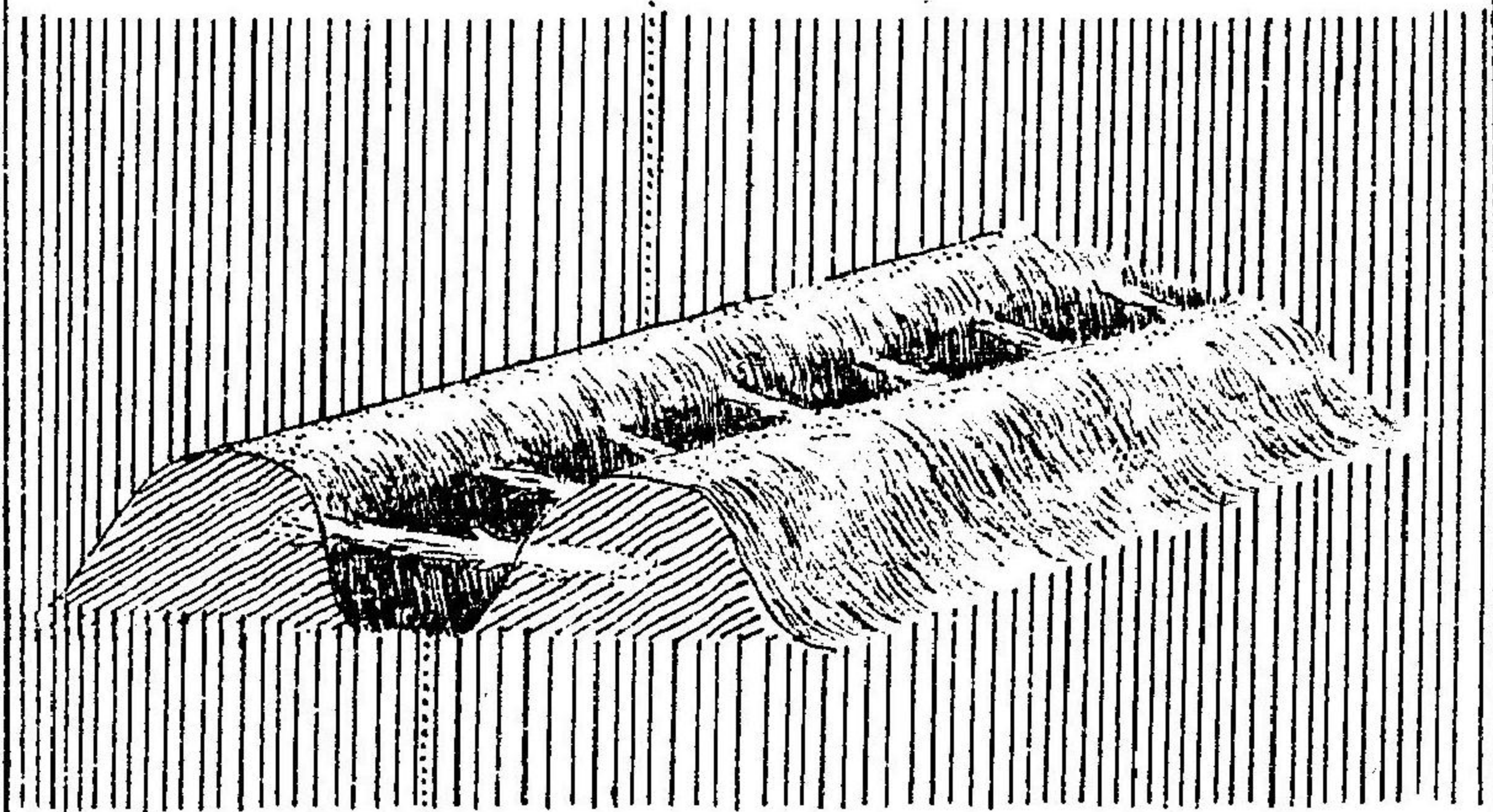


根を生ずる事が早い斯様にしたら後は時々乾燥を防ぐ爲め
 灌水してやれば大底活着發芽するものである。

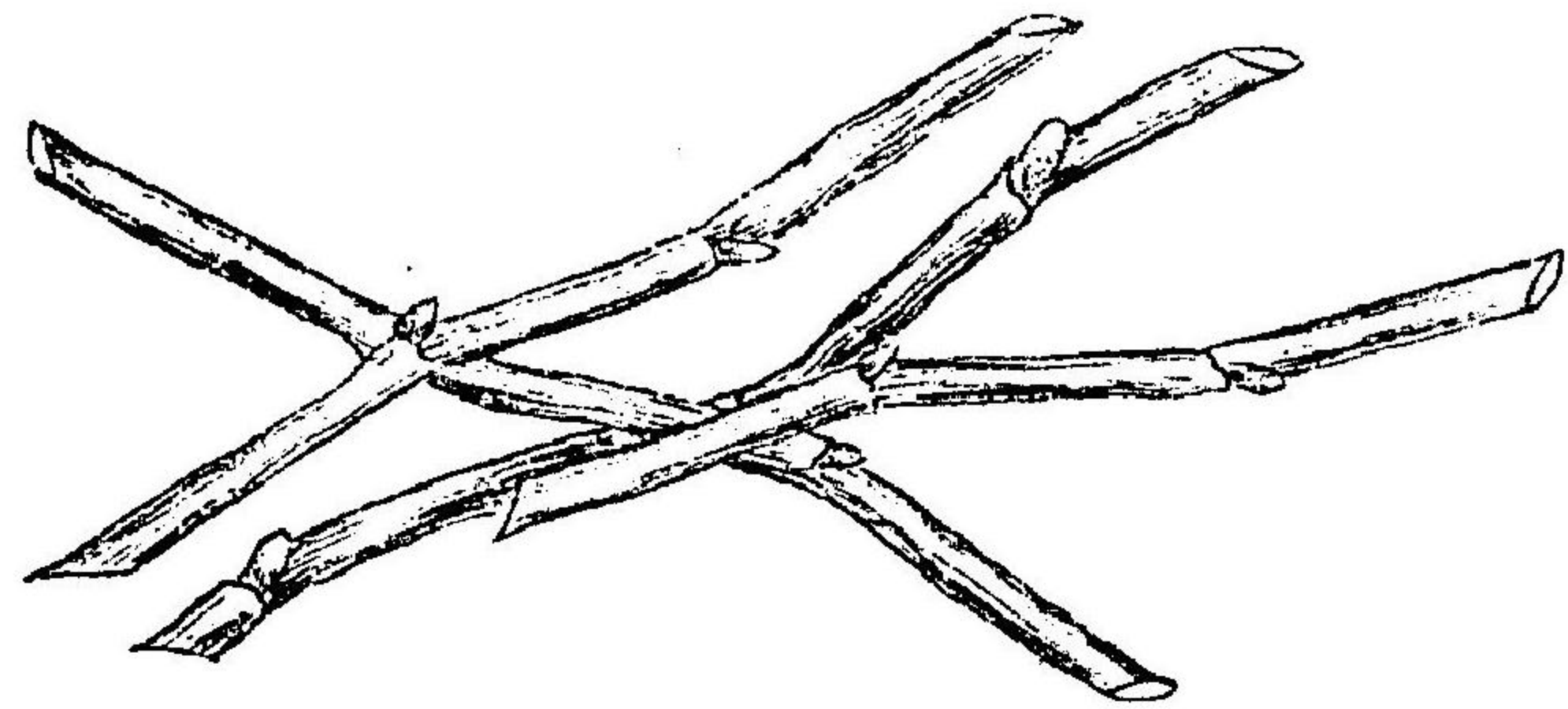
此方は桑、葡萄等の如き發根極めて容易なる種類に應用
 して便利なる事がある、期節は彼岸頃より翌春四月上旬頃
 迄隨時行ふ事が出来るが就中春季發芽前に行つた方が實
 驗上結果が良い、其法先づ新枝を本の方より長さ一尺五六
 寸位に切り取り其兩端を利刀を以て平滑に搭ぎて所要の
 本數を拵へる、而して之れを挿すべき畑地は可成砂質壤土
 で肥料分に富みたる處を撰み之れへ幾分の赤粘土を混じ
 て耕耘整地をする、其れから東西を通じて深さ五寸位の溝

一〇 伏挿法

伏挿の形



溝深五寸



挿穂の長さ一尺五六寸

を作る其距離は二尺五寸—三尺位で良い此溝の上即ち畦
と畦との中間へ豫て拵へ置きたる穂の両端を二三寸を離
して畦列に挿込み足又鋤を以て押し付けて置く、而して中
間即ち溝の上へ穂の露出せる部分へは竹の葉又は落葉或
は藁等を以て覆ふて置く既にして其挿穂が芽を出し伸長
して二三寸に至つたならば膨軟なる土を以て其芽の隠る
まで土を被ひ随つて長ずれば随つて被ふのである、而して
各芽とも充分に根を具ふるに至つたならば之れを切り離
して數多の苗木を仕立てるのである。

● 根 生 法 總 論

根生法は挿木法と同じく母樹の性質を其儘相續せしむる

爲め、或は台木用の目的に向つて蕃殖する方法であるが少
し其法を替へて居る、即ち挿木は全く根の無き部分を切り
取り地下に挿して后、發根せしむる法であるが、此根生法は
各種共其母樹から截り離さる内多少發根したものを移
植するのであるから此点が異つて居る故に根生法として
根分、株分、壓分、木分の四法に分別したのである。

即ち一二年生苗木の根を切りたるもの、或は其萌蘖又は叢
生せる枝幹へ切傷を附し埋壓して既に鬚根の發生せるも
の、或は枝幹を彎曲埋填し黄白に變色して將さに發根せん
としたるもの等を短かく切詰めて植込む方法である。
如斯一旦根を生じたるものを植込むのであるから奏効最
も確實である、就中根分法の如きは桑、桐、楮等の蕃殖に主用

根分法説明畫



一二年生實生苗木

切り離したる圖

切取線

根の末端を切りたる圖

根を把に束ねたる圖

實驗苗木仕立法

せられたるものであるが余が林檎、梨、李、三種の實験に徴するに之れを果樹類に應用して能く多くの種類を蕃殖し得るものならんと思ふ。

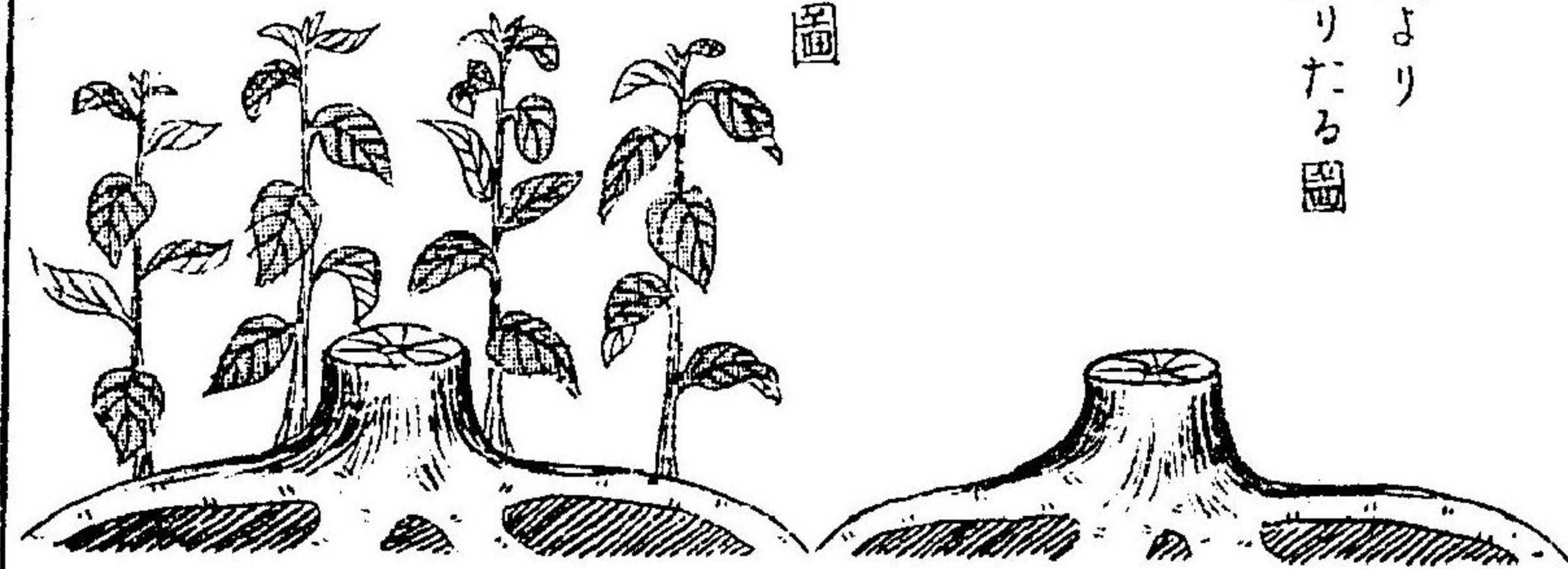
果して余の説を各種の果樹に應用せらるゝに至らば一旦實生苗を養成すれば其根は悉く切り取り根分法に依つて蕃殖に供し、根頸は春季の接台に供用せられ、切り去りたる端末は床挿又は畑挿に依りて翌春の根接台に使用せらる。如斯迅速なる蕃殖が出来るから苗木台木仕立業の如きは所謂朝飯前の仕事で實に易々たるものである。

一一 根分法

此法は専ら桑、桐、椿、林檎、梨、李、楓、椿、薔薇等で春秋の兩期に行

株分法説明書

株を根頭より
截り取りたる圖



發芽せる圖

被土を
爲せる圖



株分せる圖

實驗苗木仕立法

ふ事を得れども可成秋季に於て始める方が結果がよい先
づ秋落葉の時季が來たならば十分肥培し置きたる一二年
生實生苗又は挿木苗を掘り取る根は余り小さいものは發根
せないものが多から可成箸の大きさより以上のものを撰
び長さ四五寸位切り取りて其兩端を利刀で滑かに兩方か
ら搭ぐ而して其根を五十本位づゝに束ね打葉を以て縛し
て置く其から之れを能く乾燥した温暖な場所を撰んで深
さ一尺位幅は束數に應じて適宜の穴を穿つ其れへ豫て拵
へて置いた根束を縦列して其上から土を細く碎きて束ね
たる根の中へも隙間なく入れ尚ほ上に土を覆ひ置く而し
て翌春三月下旬頃其埋めた根を掘り出して檢すれば其切
り口は既に肉の癒合を始めて居る又上の方へは最早發芽

せんとする形を表して居る斯様になつたらも一べたもので直ちに堀り起し豫て耕耘整地して居た畑地へ其頭部を少し位地上に顯はす様種類に依り二三寸乃至一尺位の距離に植込むのである。
斯様にして苗木を仕立つる時は今春植込みの根苗で秋季落葉后には亦堀り取り前年同様の蕃殖法が出来連年根の絶ゆる事がないから同一の方法で安全に多数の苗木を作り出す事が出来る。

一二株分法

莓、椴、梓、栢、榴、梅、桃、須、具、利、栗、木、瓜、蕎、麥、牡丹、南天等の如きものは其株の傍らへ自然に藥を生じ易きものであるから之れ

へ肥土を掛けて置く時は能く根を發するものであるが、何分自然に放任して蕃殖すると云ふ事は最も于遠な方法で頭底待ち得らるゝものでない、殊に其他の果樹觀賞植物類の如きは藥を澤山生ずるものでないから一時に澤山な株分苗を得ようと思へば先づ春期將さに發芽せんとする時を見計らい其幹の根際を堀り浚へ地表を淺く逼ふて居る根を可成多く露出して幹を根際より截り捨てる(尤も桃の大樹は發芽せない事があるから見合せば良い)斯様にすれば其露出せる根の部分より澤山芽を發生するから何れも五六寸位に伸長した時に各々根元へ一二寸肥土を覆ひ掛ける、而して後一尺位に伸長した時又前の如く能く肥料分を含みたる細土を一二寸位掛けて壓し付ける如斯伸長す

れば伸長するに随つて土を被ひ掛けて厚さ七八寸にして置く時は大底元の部分へ發根するものであるから、株分けしても活着すると認めたらなら翌春發芽前に之れを引き分けて他の畑地へ移植するのであるが其時は末端を少し位切り取る、尤も成長遅緩な常盤木は末端を切り去るに及ばない、而して肥培に注意すれば二三年にして良好な高接臺となるが母樹が良種ならば接換せないでも能く其性質を維持するものである。

一三 壓 分 法

此法は果樹に在つては林檎、李、梨、梅等の如き發根し易き種類は悉く之れを行ふ事が出来る、其法先づ春季發芽前之れ



削り之れを静かに前後左右に曲げて土を中央に入れ地上より五六寸も高く押し付けて置く、而して後は除草施肥等に注意すれば容易に發根する、其れを秋期切り取り植へ出すのである、如斯して連年同じ株で苗木を作る事が出来る。

一四 木 分 法

此木分法は専ら桑、楮等に行ふ方法である、他の果樹にも行ふ事が出来るが發生最も強壯なる一年生の枝幹に行ふものであるから桑樹に在つては専ら刈桑に行はんければならぬ、他の果樹類にても之れを行ふ樹株は能く肥培して春季發芽前に幹を截りて枝幹を叢生し置かねばならぬ。全体此法を行はんとするには前年より可成一本の幹に多

くの枝を生せしめざる様成長に應じて傍芽を摘み取り澤山の叢生せる幹を長く伸長せしめて多く穂を取り得る様にす、而して翌春發芽前可成晴天の時を見計ひ根元から幹の折れない様漸々撓めて之れに土を被ひ其梢端僅かに二三寸を殘して悉く四五寸位の深さに幹の露出せない様に土を覆ひ押し付け置くのである、而して其上には乾燥を防ぐ爲め堆肥或は腐葉を散布し置き時々灌水して適當の濕氣を與へてやる、斯うして秋期に至り掘り起して檢すれば全く黄色に變じて居るから之れを五寸位の長さに切り五本づゝ束ねて温暖なる場所へ深さ一尺位の穴を穿ちて中間にも土の入る様細土を以て埋藏し置く、而して翌春三月下旬頃豫て整地を爲せる床地又は麥畑等へ二三寸—四

五寸位の距離を置ひて上端僅か一寸位を地上に表はして
殘部は悉く地下に扦插するのである、而して肥培すれば一
二年にして良好の苗木となる。

●接木法總論

凡べて接木法は花樹にあつては其母樹より一層優美艶麗
なる花を得られ、果樹に在つては大果美實にして然も甘味
なるものを結成せしむる事が出来る。
然るに實生法に依りて仕立つるときは果樹觀賞樹の多く
は罕に母樹より優るの良種を得る事がある外は大底皆變
性して特に劣悪のものに化するを常とするが故に母樹と
同質のものを得ると云ふことは頭底豫期すべからざるこ

とである、だから實生蕃殖と云ふ法は一つの新種を得たい
と云ふ目的を以てするに非らざる限りは普通施行すべき
ものでない、此處に於て接木法の必要を生ずるのである。
挿木又は根生法に依つて蕃殖すれば能く親樹の性質を相
續せしむる事が出来るが良好なる小数の種類を同時に澤
山蕃殖すると云ふ場合に合はないのみならず種類に
依つては幾分か成長が遅緩であつて且つ命數が短かい、斯
様な時に樹の命數長くして且つ成長の最も盛んなる實生
苗木に接木を施すのである。
又庭園等へ從來より培養結果しつゝあるも悉く野生に近
き種類で殆んど口にすることが出来ないから良種のもの
に改良したいとか又は新に最良なる新種を求めて栽植し

た時に之れが花果を早く結成せしめて見たい、或は有益なる果樹の老衰した奴を再び強壯なるものに恢復させたいと云ふ様な場合には是非とも之れに接木法を施行せねばならぬ。

其處で之れが施術も幹に枝に將た又根に、或は高く或は底く穂も又技梢に隠芽に其々適切なる方法を行ふ必要を生じ随つて澤山の種別を生ずる事になる、余は茲に接木法を大別して高接法、根接法、芽接法の三種とし更に之れを小別して各々細説する事にしたのである。

其れから殊に注意を促して置きたいのは接臺の撰擇である、全体植物の接木し得らるゝ範圍と云ふものは同科にして同属同種のもものは勿論其異属異種類のものまで應用し

得るも接換後永く樹命を保たしむるには其花粉の交雜し得べきものが最も良い、即ち同種類中の異種が最も良いと云ふ事は既に植物學上の定義である、其所で接換し得ると謂つて漫りに行つてはならぬ、故に或る目的を以てする外柑橘類には枳殼又は柚子、砧、桃、巴旦杏には桃、李、砧と云ふ如く接穂の性質と台木の性質と類似して殊に木質の相近似せるものでなくては施すものでない、假令利刀に依つて巧に切斷面を平滑ならしめ、發生層の接合をして能く癒合せしめ得るも樹命短縮して遠からず枯死するを免れないから將來利益のあるものでない。

今茲に接木し得べき果樹台木を列記して参考にする、尤も適切なる種類を第一に置き以下順を逐ふて第五迄になし

花樹の類は花櫻、花桃、花梅、花柘榴等悉く果樹の台木を參酌し得べく其他の種類に在つては薔薇は野生の薔薇、椿、茶梅は同じく下等の椿、茶梅のみに接き得るが如く或は實生に根分に野生、何れも大略母樹と同種類のものに接き得べきものであつて余り台木の種類が多くないから茲に略す。

●高接法總論

高接法の種類は古來より行ひ來つたものが澤山あるが就中吾人が實驗に徴して最も實用に適したる割接法、皮接法、寄接法、水接法の四種を掲げ之れに接蠟紙製法を加へて五種に分別したのである。本來此高接法なるものは一旦實生又は扦插栽子を定植し

たる后又は從來より既に栽植せられたる果樹、花樹類を接換するに主用せらるゝ技術であつて營利的と愛玩的とを論せす奇品良種を蕃殖して俄かに多量の産額を得又は澤山なる艶麗美大な花を開かせんとする場合に用ひられる即ち庭園の裝飾樹として傍ら果實の眞味を試み無上の快樂と利益を得つゝある老樹にして既に生育の衰弱を來たし美觀を損するのみならず隨つて産額を減少せんとする場合に當つては此老樹の株元に勢力強壯なる若樹を栽植して其先端を老樹の技幹に此接法を施せば自然勢力を恢復し其美觀をして一層の妙味を感せしむるのみならず又大ひに産額を増すに至るものである。又接木法なるものは其樹性をして中和せしむるものであ

るから既に定植せられたるものが勢力強壯活潑にして成長非常に盛んに愈々徒長枝を生じ花蕾を結成せないと云ふ奴には再三此高接法に依つて接換して遣る左様すると自然勢力を減じて中性のものとなるから開花結實する様になる。

其れから又此高接法に依つて既に地方に蕃殖を逞ふせる虫害を免るゝ事が出来る余は嘗て之れを實行して好成绩を得たと云ふは從來より培養せる桃の大樹が澤山開花結實するも毎年嫩果の時皺縮して悉く落下して了ふ如何云ふ譯か之を親しく検査した處が確かに無數の象鼻虫が落花後忽ち襲ひ來り嫩果を刺傷するのであると認められたから落果を悉く拾ひ集め焼棄して二三年之れが豫防に勉めたが

仲々往生せない奴が又今年もど行つて來る、其筈である余は熱心に行つて居るが既に象鼻虫は地方に澤山蕃殖して居る、刺へ憐れ地に他人の桃樹がある仕方がない計りでない極力之れが豫防驅除に注意する程の種類でないから茲に改良を企てたのである、即ち此樹の大枝を悉く切截して牡丹杏を接いだ、施術は別に變つた事は無いが少し時機が遅れて接穂の新芽が伸長して居たから二三年生の最も充實固定した枝梢の端末を切り去りて皮接法を施し余が発見せる接穂紙を貼付して接梢へ石灰水を塗末したのであるが、一本の枯損なく悉く活着した、基より砧樹の勢力が良いから非常なる勢を以て伸長を始め三年目に結果したのが一本四針余りであつた其れからは象鼻先生行つて來ない

から毎年結實して現今は能く三斗の産額を見る如斯接木に依つて一つの虫害を免れた。處が虫害の爲めに折角定植せられたる良樹を漫りに截り倒すと云ふ事は更に結果時季に達する迄の年齢に於て不經濟であるから此法は種類も共に改良したいと云ふ場合でなくては施すべき方法でない。

一五 接蠟紙製法

此接蠟紙製法は高接法を施行する場合に最も必要不可欠からざるものである、全体接穂と云ふ奴は砧木より送り來る所の樹液を吸収して同化するの働きを生ずる迄は殆んど獨立して生命を保たなければならぬものであるから、接

木術を施した后其切傷部が乾燥すれば枯れて仕舞ふ故に早く砧木の養液を吸収せしめ且つ穂の萎凋を防ぐ手當をしてやらねばならぬ、彼の根接法の如きものは施術した部分に依り絶へず適當の濕氣を得て乾燥を防ぐ事が出来る故に別に接蠟紙を貼付するに及ばないが高接法になると其れが六つかしい、縦し従來の通り高き砧に土を入れたり赤粘土又は牛糞等を塗つた處で雨天の時は濕り過ぎ晴天打續く時は乾燥に過ぎて多くは枯凋するから僅か僥倖にして或るものが不完全に活着する位のものである、處が此接蠟紙を製して貼付する時は百發百中悉く活着する。接蠟紙の製法を述ぶる前に接蠟の調製方を記し置くから

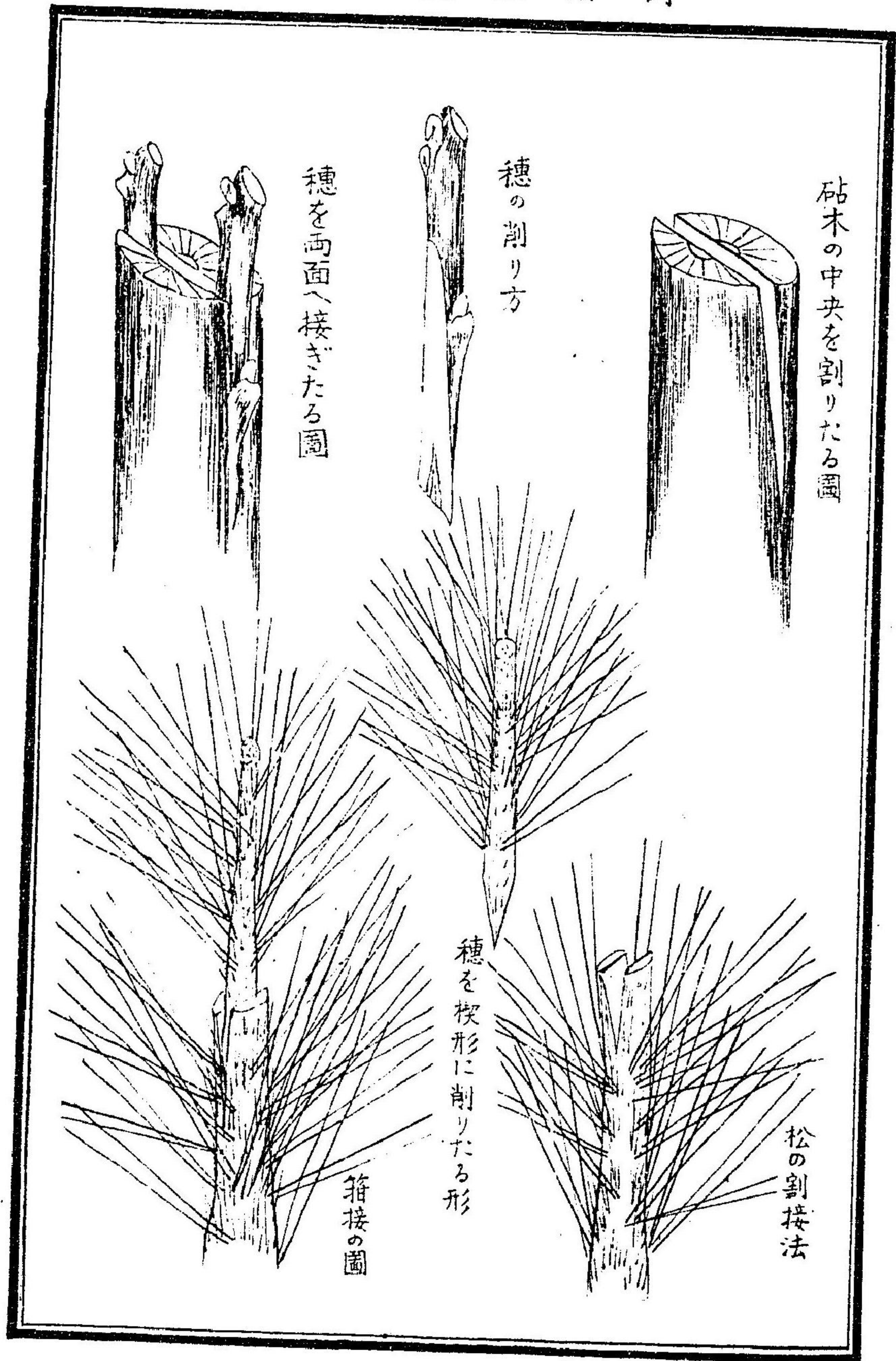
法立仕木苗驗實

宜しく實驗が願ひたい其法先づ松脂四十匁密蠟二十匁牛
又は豚脂十匁以上三種を土鍋に入れ火に懸けて溶解する、
溶けたならば能く攪拌混合して直ちに冷水中に投入する、
而して亦能く練り合せ小さき棒に製して置く之れを接砧
及穂の切傷部へ隙間なく塗り付ける。
接蠟紙の製法は松脂三十匁を文火に上ぼして稍々溶解し
たる時之れに蜜蠟三十匁豚脂二十匁を入れ能く攪拌溶解
せしめて之れに半紙八つ切りのものを二三十枚重ねて容
れ十分浸透すれば之れを取り上げ一枚づゝに離して冷却
するのである。
又更に一法是れが製法が簡便であるのみならず使用に便
利で尙ほ奏効確實である此法先づ精選松脂百匁を文火に

法立仕木苗驗實

上ぼして溶解し之れに種油二勺—三勺位入れ全く溶解し
た時之れを能く混合せしむる爲め攪拌する、而して刷毛或
は筆を以て新聞紙を半紙四つ切り大に切りたるものへ厚
く塗り付け二重に折り疊みて置く、而して春季接木の際必
要に應じ烙りて之れを延ばし接穂及台木の接傷部へ隙間
なく貼り付けける全体此接蠟紙を貼付するのは乾燥を防ぐ
のみでない、傍ら雨水の浸入して腐敗するのを防ぐ用を爲
すものであるから接梢の元を堅く巻き付け砧穂の間より
水の浸入せない様にせねばならぬ、斯様にして置けば大底
枯損はない。
以上の接蠟及接蠟紙は獨り接木の際使用するのみでない、
凡べて大樹又は枝を接截して新枝を叢生せしむる場合に

畫明說法接割



は其切斷面に塗沫又は貼付し置く時は能く雨水の浸入を防ぎ切斷面皮肉の癒合を爲すから之れが爲めに腐敗枯損を防ぐ事が出来る。

一六 割接法

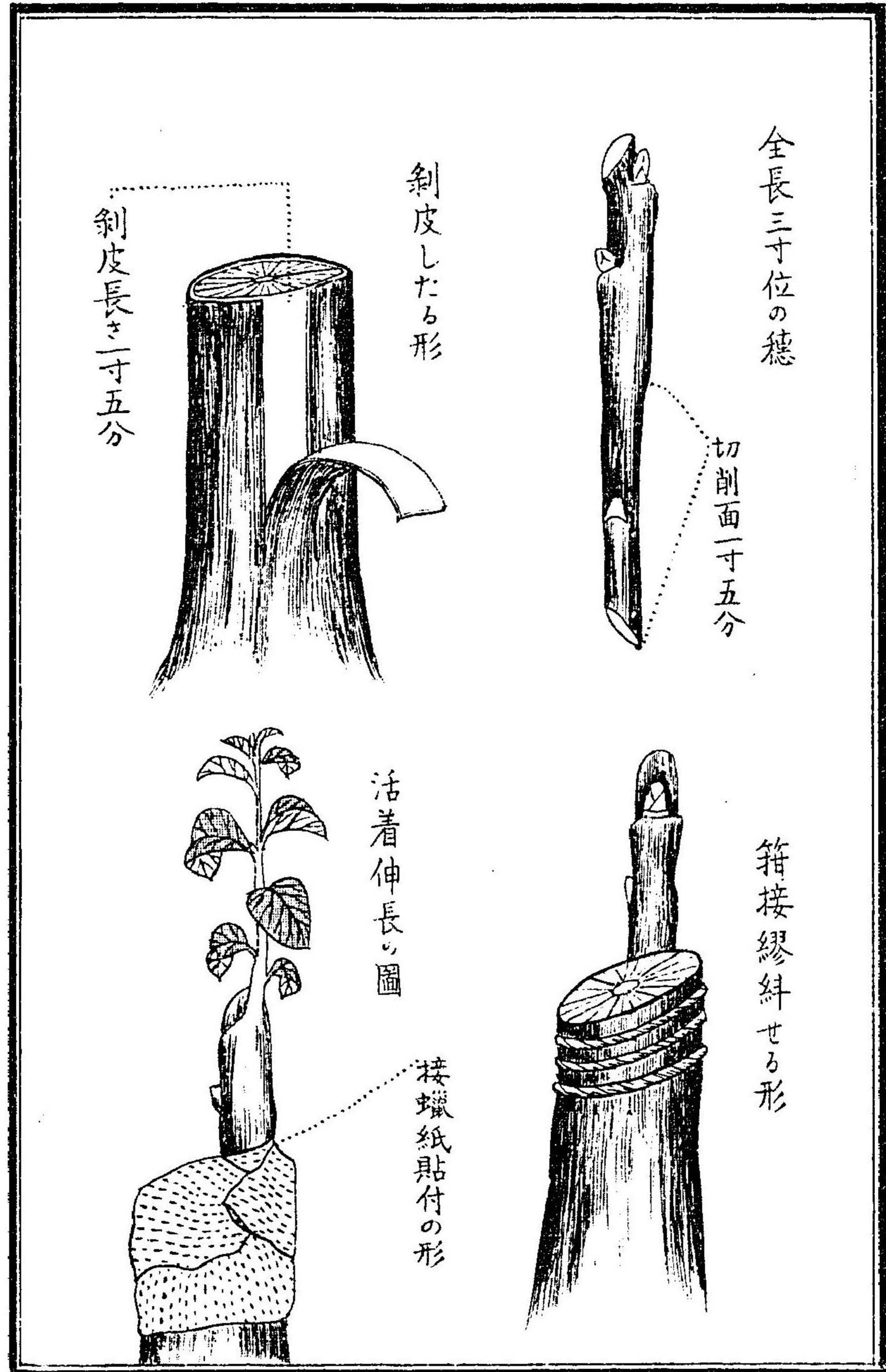
此割接法は古來より果樹及觀賞樹等を接木するに應用せる方法であつて種類と期節に依りては又最も簡便なる良法である。

先づ接砧を適宜の部から鋸を以て切り離し更に利刀を以て鋸面を平滑に削り直徑六七寸位より以下の砧木ならば其中央六七寸以上ならば少し側らへ寄せて上より竹割刀の如きものを以て縦に割り之れが中央へ木又は竹を平に

法立仕木苗驗實

尖とがらせたるくわを打う込みりょうほうの割わり目を木ぼく質しつを添そへて平ひら滑なに接つ梢しやうに合あせて削くる、而しかして接つ穂ほは二に芽め——三さん芽めを附つけて二に三さん寸すんに切きり接つ部ぶを一寸五分位いちうごふぶんゐ両りやう側がわより元もとに向むかつて搭たぎ尖とがらすか様ようにして游よへた穂ほを二に本ほん面めん方ほうへ挿さ込み然しかるち后のち中央ちゆうじやうの楔くわを接つ穂ほに觸ふれぬ様よう注ちゆう意いして拔ぬき取とり纏まと絡らして接つ蠟ろう紙しを際ぎ間まなく貼はりり付つけるのである。又また松しょうの割わり接つ法ぽうを行おふに最も簡かん便べんなる方かた法ぽうがある、先まづ一いち年ねん生せい亦または二に年ねん生せいの砧きん木ぼくを長ながさ四し五ご寸すんに截きる葉はは其ま儘ままにして其ま断たん面めんの中央ちゆうじやうより長ながさ七しち八ぱち分ぶん位ゐ縦じゆう裂れつする、而しかして之これに新あらた梢しやうの生せい育いく佳か良りやうなる目め的てきの種しゆ類るいを先ま端たんより二に寸すん程ほどの長ながさに切きり断たん面めんの両りやう側がわを七しち八ぱち分ぶん位ゐ楔くわ形けいに削くりたるものを縦じゆう裂れつせるせ砧きん木ぼくに挿さ込み、而しかして接つ穂ほは砧きん木ぼくに附つ着ちやくせる葉はを以もて卷まる

皮接法説明畫



き稍々堅く纏縛して之れを苗床に蜜植し日光や風に當らぬ様四方井に上から被ひを施す、而して五六月頃活着十分を見込みたるとき他の畑地又は床地へ移植するのである、此方法に依つて大樹の松も先端を悉く異種のものに接換する事が出来る。

一七皮接法

此法は直經一寸以下の小き砧木より直經六七寸の大樹に至るまで悉く應用し得られ殊に最も能く活着するものであるが、之れを施し得べき期間が至つて短いから常に注意して時機を經過せぬ様に行らねばならぬ、如何となれば此皮接法は臺木の皮裏に接穂を箱入する法であるから臺

木の皮の剥離し易きとき即ち春季温暖の氣候に遇ひ將さに崩芽を始めんとする時より行ふのである。

處が皮が剥離するからと謂つて何日迄も接げるものでない、接ぎ得る期間は春芽の伸長を始めてより一寸位になるまで僅かな間である、余が實驗に徴するに、臺木の種類に依りて多少の相違はあるが砧木を通じて春期樹液の循環を始めて皮層の離れ易くなりたる時より十日間を以て最も好時期とする。

此法先づ砧木を截りて切部を平滑に削り利刀を以て木質に達する迄長さ一寸—一寸五分位幅は穂に準じて縦に二線切断面より下部に向つて傷付け竹篋を以て其傷の上端より皮を剥ぐ、而して穂は二芽—三芽を有するもので長さ

法立仕木苗驗實

を三寸位に切り其接部は長一寸——一寸五分位稍々斜めに
なる様削り其正反對の部分に長さ二三分程深く木心に向
つて斜めに切斷し之れを前の皮を剥ひた砧木へ嵌め込み
て繆糾するのである、大樹ならば一本の莖木へ三四本も接
ぐが良い其から接ぎ終つたならば之れに接蠟紙を間隙な
く貼り付けるので其後は時々莖芽撥き取りに注意すれば
安全に活着發芽するものである。
普通小き砧木に接木を行ふ場合には之れを纏絡する材料
は葉を軟かく打ちたるものを使用するも高接の大樹にあ
りては極く細く製したる小繩を使用するが便利である。

一八 水 接 法

畫明說法接水



穂を水瓶に挿せる圖

穂を竹筒に挿入する圖

活着後水瓶を取除きたる圖

活着後穂の下端を切りたる圖

法立仕木苗驗實

水接法は枝梢が柔軟で萎凋衰弱し易き種類に専ら行ふ方
 法である、此法を施す時は如何なる成長遅緩にして木質堅
 固な種類も又如何なる高さ枝にても能く改良の目的を達
 する事が出来る。
 此法先づ砧木は高底随意の枝幹を鋸を以て截り其断面を
 利刀を以て平滑に削る、而して断面より一寸—一寸五分位
 下から上へ向つて皮を稍々木質に掛けて搭ぎ去るのであ
 る、而して接穂は普通のものよりは長く取らねばならぬ、尤
 も臺木が弓形に彎曲したる外側へ接木を行ふ時にあつて
 は、比較的短かき穂を接ぐ事が出来るが大底其穂は五六寸
 から一尺二三寸迄に切り取り下端を少し位焼く、斯くすれ
 ば穂木の液汁が水に浸出して腐敗する事がない、而して穂

畫明說法接寄



紅葉を寄接せる圖

活着後切離したる圖

梢端を切らずして寄接せる圖

の上端から二寸位下を砧木の削面と同じく長さ一寸一
寸五分位皮を削り去り砧木の削面と密接せしめ打蠟を以
て巻縛し其周囲を風雨の浸入せない様に堅く接蠟を塗沫
する、而して后穂の下端を豫て用意し置きたる瓶又は竹筒
へ水を入れたものへ挿込む、其瓶又は竹筒は緒を結び付け
て臺木に纏絡し置くのである、斯様にして後には常に巡檢
して接穂の吸収すべき水の絶へない様に注意して遣れば
確實に活着するから新芽の一尺位に伸長した時接部より
下端を截り取るのである。

一九 寄接法

此法は椿、山茶花、楓、槭、躑躅等の如き木質堅實であつて成長

が遅く随つて他の普通接木術を施して容易に活着せしむ
る事が出来ないと言ふ種類に施して便利である。
又更に高價を拂つて求めたる貴重な種類を最も安全に早
く成長せしめて澤山蕃殖したいと云ふ時、或は接穂を取る
べき臺木は極小數であるが接木を澤山行ひたいと云ふ時
等には最も適切なる方法であるから是非之れに依らなけ
ればならぬ。
此法を施すには先づ三月上旬頃臺木の芽の膨動する頃よ
り始め八九月の頃樹液循環の遅緩になりて新芽の伸長停
止する迄に終るのであつて其期間至つて長い、然しながら
春期に施行せるものは其癒合夏、秋期のものに比して一層
早きものであるから期間中可成早期に行ふを便利とする。

接方は水接法の如く接がんとする。臺木を適宜の處より切
 截し其接断面を滑らかに削る、而して上端を一寸—一寸五
 六分位、皮を木質に掛けて搭ぐ之れに穂枝を偃曲誘引して
 砧木の削面と同様に削り相巻絡して癒合せしむるのであ
 る。
 貴重なる種類を早く成長せしむる爲め此法を行ふ場合に
 は其臺木の左右へ二本の強盛なる臺木を植へ前の如く砧
 木を削り去つて良種の兩側へ接着癒合せしむれば最も迅
 速に成長する。
 又小数の良種にして高き枝を深山接木にせんとするとき
 は所要の砧木を鉢植にして之れを置くべき板柵を造るか
 又は穂木の枝幹に釣るし置きて之れに寄接を爲し活着の

後穂木を切り離して臺木鉢を取り去る如斯するときは如
 何なる堅質の種類で活着困難なものも能く目的を達する
 事が出来る。
 其れから又此法は苗木として説明すべきものではないが
 寄接法を述べたる續手なるを以て記して置く其れは南瓜や
 西瓜の如き瓜果類を寄せ接ぎして驚く程の大果を結成せ
 しむる法である、其法先づ一尺五六寸深さの穴を掘り之れ
 に堆肥木灰等の肥料を能く混合したるものを可成幅廣く
 入れ更に此上に殖土を五寸位入れ之れに種子を播下する、
 發芽したならば水肥等を施して成長を促してやる、而して
 一尺—二尺位に伸長した時二本—三本の蔓を引寄せて前
 述の如く側面の皮を削つて連接せしめ之れに接蠟紙又は

兩紙を巻きて纏絡し置く、其れが癒合したならば接部より上の蔓は一本残して他は悉く切り去る即ち一本の蔓にして二本——三本の根を生ずる譯である、斯様にして置けば澤山開花結實するから就中最も勢力能きもの、小數を留めて餘は悉く摘去し蔓も余り伸長せしめざる様新芽を摘み去るのである。

●根接法總論

如斯して結成せる果實は實に驚くべき非凡のものを得るものである。

此根接法を施すべき時季は土地の寒暖に依つて大ひに早晩を異にするから或は寒接と稱して早春融雪后直ちに行ふことを得るものであるが、可成春季温暖の氣候に逢ひ樹液循環を始めて樹皮に光澤を帯び芽の膨脹して將に萌芽せんとするときより始めて既に萌芽せるまで即ち十日乃至廿日間位を最も好時期とするのである。

法立仕木苗驗實

豫め新芽の發生する時機を識らねばならぬ、尤も植物の發芽する時期は同一地方に在つてもスグリ、梅等の如き二月下旬頃には既に芽の發生するものもあれば又、蜜柑の如き五月上旬に至りて漸く發芽を始むるが如き土地の寒暖のみならず又大ひに種類に依つて大差を生ずるものであるから各々地方に依つて一春萌芽の時期を豫め記載し置くべきである。

茲に余が住所即ち廣島縣の北部に於て試みたる萌芽の時期を表しして參考に供す。

密柑	種類	發芽期	種類	發芽期	種類	發芽期	種類	發芽期
五月三日	杏	三月廿一日	李	三月十九日	柘榴	四月十四日	梅	三月十九日

法立仕木苗驗實

元來此根接法の期節は前述の如く春暖の候各種の草木は將さに新呼吸を營むべく黄綠色の萌芽を始め諸種の事業は又將に此時に胚胎すると云ふ様な多忙な時であるから整地に播種根分に挿木加之接木と移植が同時に來るから豫め手廻しをして行つても多數の苗木を作り出す場合には仲々完全な仕事の出來るものでない、其所で前年の秋季より所要の穂木を切り取りて貯藏し置けば便利である、尤も早春切り取りて如斯準備する事を得るが秋季貯藏のも

無花果	四月十日	桃	三月二十日	牡丹杏	三月廿日	榲桲	三月廿九日	櫻桃	三月廿日
枇杷	四月十五日	栗	三月廿五日	梨	三月十八日	柿	三月三十日	莢菜	三月五日
林檎	三月十五日	巴西香	三月廿日	葡萄	三月廿日	胡桃	四月一日	スグリ	二月廿日

のが活着し易ひ、處が各種を通じてと云ふ譯に行かない即ち
無花果、杏、桃、栗、巴旦杏、梅、李、柿の如きものは秋期より準備し
たものは活着の歩合が悪い、又密柑類、枇杷等になると絶体に
に宜しくない、故に之等は共に春期發芽前に切り取り乾燥
せない様にして貯藏し置くが良い、其れから
桑、梨、葡萄、スグリ、榊、柘榴、櫻桃、華果の如き活着し易き強壯
の種類は秋季初霜の候に母樹の一二年枝梢を切り取り其
儘適宜の把に打蕪を以て束絡し之れを多濕ならすして又
余り乾燥せざる土中に横臥埋藏して翌春之れを適宜に切
り接木用に供するのである、施術方法は各法の下に詳しく説
明する。

二〇 切接法

此法は接穂の木質堅實であつて成長極めて遅き種類又は
枝梢柔軟であつて最も萎凋衰弱し易き種類を除く外は果
樹、觀賞樹、悉く之れを應用して極簡便適切なる方法である
故に苗木生産地の苗木は大底此方法に依つて接木をして
居るを見ても如何に施術の容易なるかを窺知する事が出
来る。
其法先づ穂の長さ二寸—三寸位で二芽—三芽を有する様
に利刀を以て切り其下端の側面を長さ一寸—一寸五分位
稍々木質を添へて能く平滑に削り其反對に裏面を深く心
髓に向つて斜に切斷する、而して台木は余り小さきものと又

法立仕木苗驗實

余り大なるものとは之れを施すに不便であるから、周圍一
寸より三寸位のものを撰ぶが最も良、四五寸以上の大樹
も能く此方法を施すことが出来るが手数が掛るから如斯
ものは寧ろ高接法に依るに限る。
柿、栗の如き直根多くして鬚根の少きものは畑地へ栽植せ
る砧木を其儘接木術を施すものであるが其他の種類にあ
りては大底砧木を掘り取りて假植し置き翌春之れを接砧
に切るのが手数が省けて且つ容易である、其法先づ砧木の
根頸を去ること一寸—一寸五分位の處を切断する、其断面
を是れ又利刀を以て平滑に削るのである、而して側面の皮
を容易に剥ぎ得る處即ち芽節等の無き所を認め縦に二線
切り目を入れる其長さは接穂の削面同様になし幅は寧ろ

法立仕木苗驗實

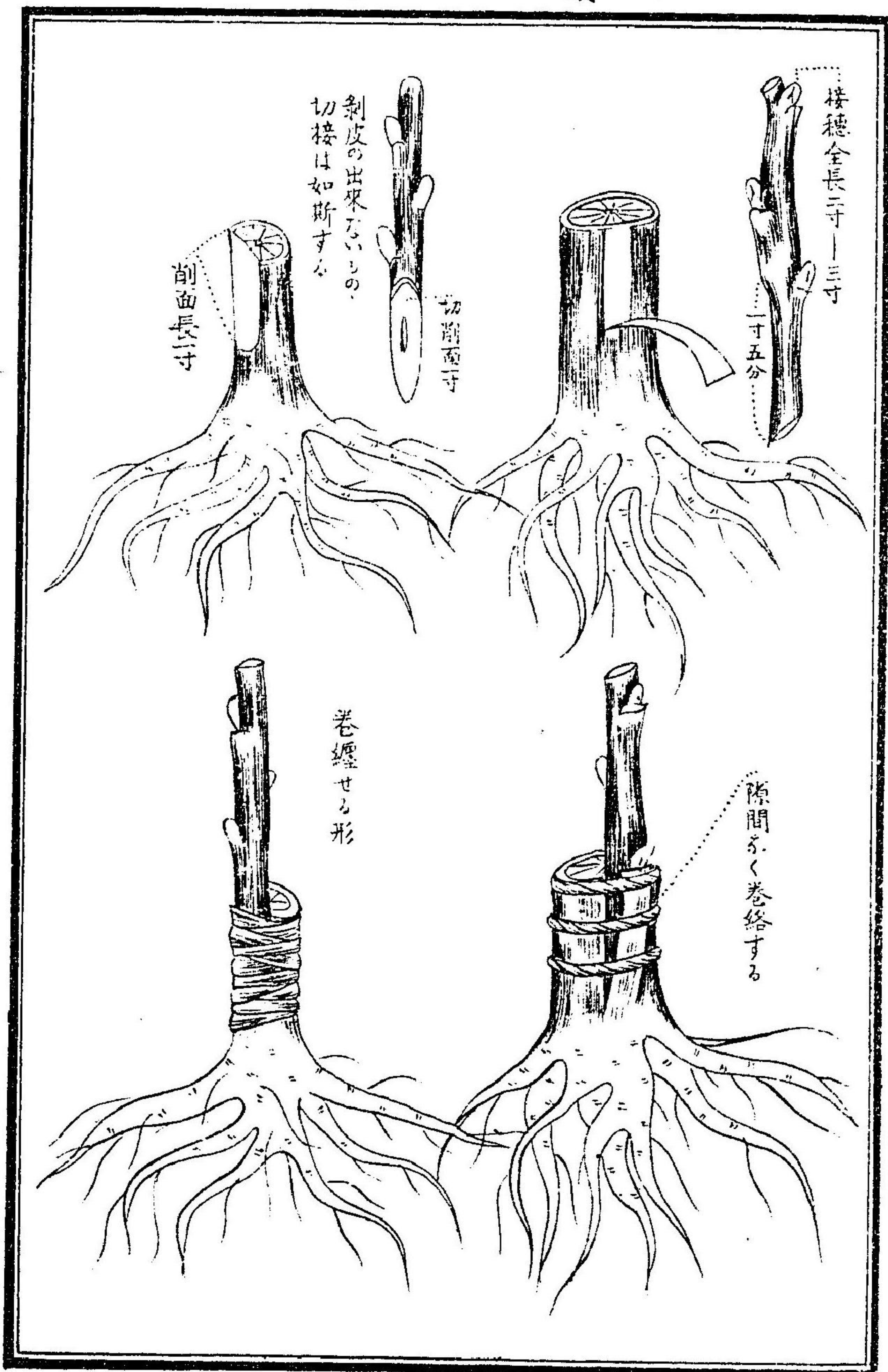
少し位廣きを要す、而して竹を以て製したる薄き篋を以て
切り目を入れた間の皮を下に向つて徐ろに剥ぐ其れに豫
て拵へ置きたる接穂を箱入し剥ぎ下げたる皮を穂の上に
被ひ其上を打藁を以て巻絡するのである。
尤も桑、梨等の如き活着し易き種類は臺木の皮を剥ぎ取る
手数を省き之れを根頸から上に向つて穂の削面と同じ長
さに皮を削り取り之れに穂を蜜接して堅く纏絡しても能
く活着するものである。
斯様にして所要の接木が出来たならば之れを豫め耕耘整
地し置いた畑地へ運搬するのである、畑地は深さ四五寸の
植溝を掘り之れに接穂を種類に依り三四寸より一尺位の
距離を置き町噺に細土を以て根を埋め其上に腐熟せる肥

法立仕木苗驗實

料を施し更に土を被ひ鉄を以て稍々堅く締めて置く其から接穂は一番上部の芽が見へ蔭れ位になる様に土を被ひ置くのである、發芽伸長を始めたならば更に一二回の肥料を施し除草等に注意すれば其年の秋季には十分移植し得る様成長して居るから販賣又は定植用の苗木として掘り取ることが出来る。

其れから此法の施術者に向つて注意して置くべき事は臺木を切り去りたる部分を漫りに棄つべきものでなく之れを大ひに利用することである、既に挿苗法に於て述べ置きたるが如く一二年生臺木の根頸を去ること遠からざる部分は之れを挿木にして最も能く發根するのみならず挿木法中此法に依るもの又最も速かに成長するものであるか

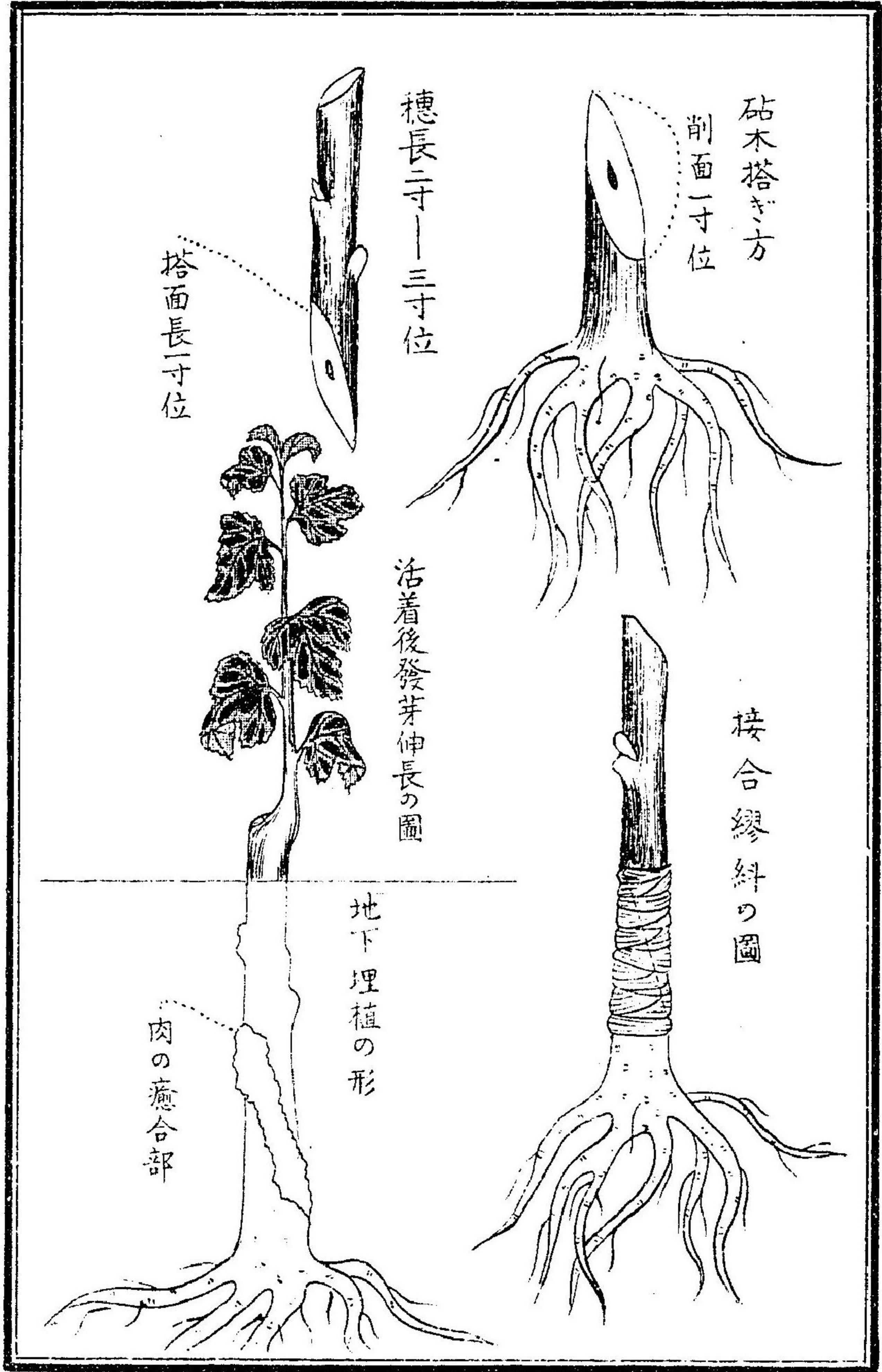
畫明說法接切



此方は法はは 砧木は小くして他の接木術を行ふ事困難なる場合又は、梨、桑の如き活着最も容易なるもののみに行ふて便利である。
 其法先づ砧木を掘り來り根頸を上に向つて長さ一寸—
 寸五分位斜に極平滑に搭ぐ、而して接穂は二芽—
 三芽を附したるもので二寸—
 三寸位に切り利刀を以て是れ又は砧木の如く其下端を削面一寸—
 一寸五分位斜に搭ぎ取り之れ

二二 搭 接 法

之れを并挿して翌年の接木砧に供用すれば向後同種の砧木を仕立つるに於て更に種時より始むるを要さぬ、故に毎年多くの砧木を容易に仕立てる事を得る。



を接ぎ合して纏絡するのである。此搭接術を施したる接木は取扱上動もすれば接目の轉動を來たし或は植出中接穂の抜ける事があるから之れを巻縛する藁の如きも極軟かく打ちたるものを以て稍々堅く巻絡する必要がある。而して臺木と接穂は其大きさの同じ位のものを受け合せるが活著し易ひと云ふのは、接梢臺木共に一刀搭ぎ取つた儘接合せしむるのであるから両断面の發生層が内外へ凹凸の出來ない様能く滑らかに密着して養液の交換を始めます必用があるからである、斯の如く可成は砧木接穂共に同大のものが良いが既に接木術を執行すると云ふ場合はなると、ソノ甘く同大のものを選擇すると云ふ譯に行かない

から斯様な時には砧木、穂木の何れでも大きさを小さい方を側らへ寄せ片方の發成層をして相互に密着せしむるのである、所要の接木が終つたならば之れを外の畑地へ一列に二三寸の距離を置き穂の先端を少し地土に表はし極町等に深く植出すのである。而して後乾燥地ならば其上へ木の葉又は藁を五六寸に切りたるものを薄く振り掛け置き表土は常に適當の濕氣がある様に注意して行れば大底は活著して發芽成長を始むるものである。

一三三 舌 接 法

此法は木質余り堅固ならずして切込に容易なる種類即ち

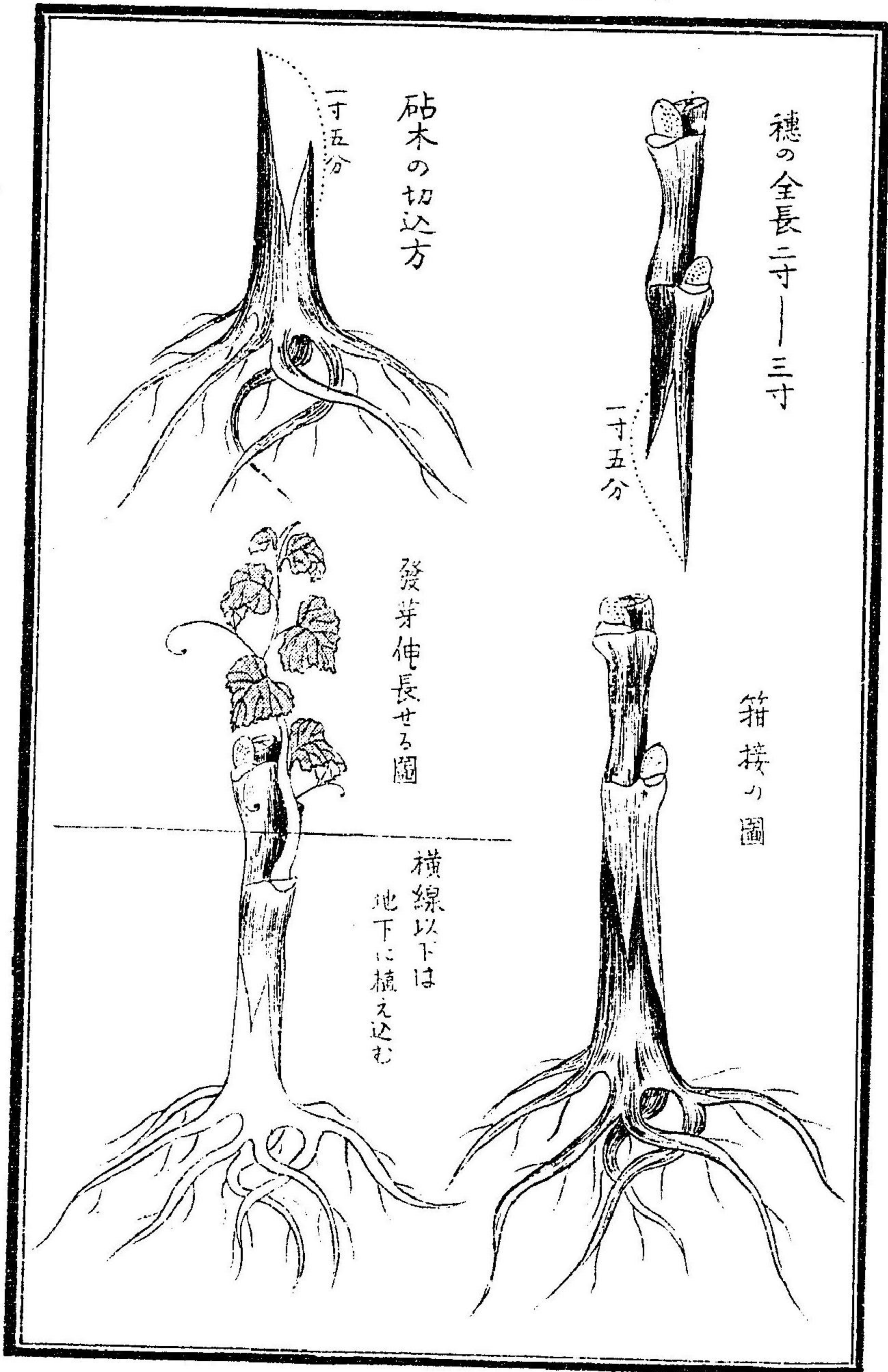
を接ぎ合はして纏絡するのである。
此搭接術を施したる接木は取扱上動もすれば接目の轉動
を來たし或は植出中接穂の抜ける事があるから之れを卷
縛する藁の如きも極軟かく打ちたるものを以て稍々堅く
巻絡する必要がある。
而して臺木と接穂は其大さの同じ位のものを受け合せる
が活着し易ひと云ふのは、接梢臺木共に一刀搭ぎ取つた儘
接合せしむるのであるから兩断面の發生層が内外へ凹凸
の出來ない様能く滑らかに密着して養液の交換を始めさ
す必用があるからである、斯の如く可成は砧木接穂共に同
大のものが良いが既に接木術を執行すると云ふ場合は
ると、ソリ甘く同大のものを選擇すると云ふ譯に行かない

から斯様な時には砧木、穂木の何れでも大きさを小さい方
を側らへ寄せ片方の發成層をして相互に密着せしむるの
である、所要の接木が終つたならば之れを外の畑地へ一列
に二三寸の距離を置き穂の先端を少し地土に表はし極
等に深く植出すのである。
而して後乾燥地ならば其上へ木の葉又は藁を五六寸に切
りたるものを薄く振り掛け置き表土は常に適當の濕氣が
ある様に注意して行れば大底は活着して發芽成長を始む
るものである。

二三 舌接法

此法は木質余り堅固ならずして切込に容易なる種類即ち

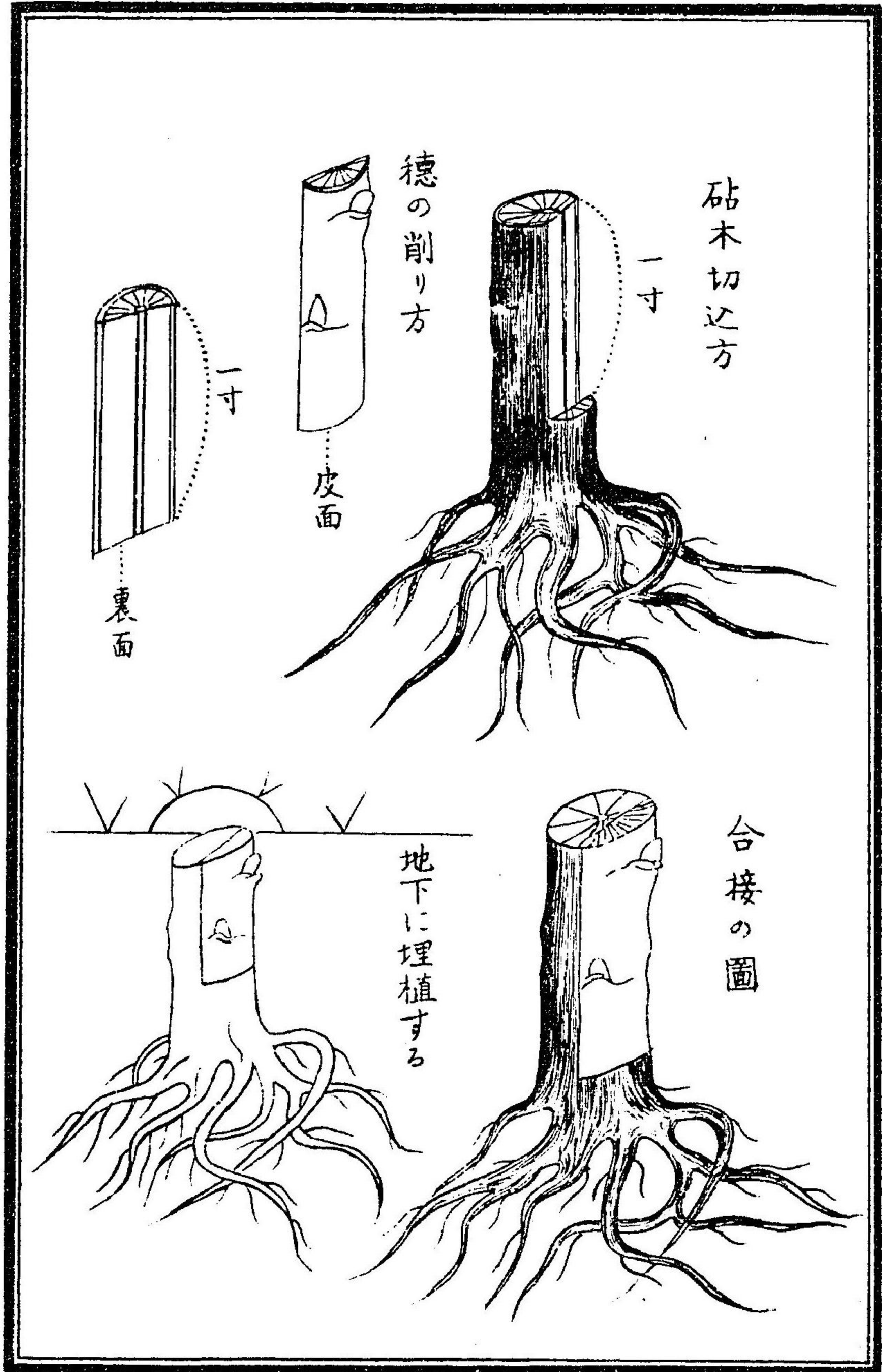
舌接法説明書



實験苗木仕立法

葡萄、梨、林檎、李等の如きものに施し得べき方法である。施すは稍々困難なる点があるが之れに依つて接木を爲すときは久しく土地に埋藏し置くも亦移植の際少々粗暴の取扱を爲すも接目の移動する等の憂がないのみならず、農家閑隙の際施術し置き得ると尙ほ發生層の接合面積が廣くならず、随つて活着容易なる譯であるから少し巧運の嫌はあるが強ち捨つべき方法ではない。此は臺木接穂共に殆んど同大なるものが都合が良いから可成臺木に比較し得る穂を撰び二芽—三芽にして二寸—三寸位の長さになり切り利刀を以て切削面凡そ一寸—一寸五分位の凹凸なき様極滑らかに削り其切削面を薄き小刀で縦に割つて舌を着ける。

合 接 法 說 明 畫



實 驗 苗 木 仕 立 法

而して、臺木も根頸より上に向つて斜めに切削面を穂と同
じく一寸—一寸五分位になる様削し之れも亦穂と全じ位
置を縦に割り舌を附して直ちに穂を之れに箱入密着せし
め打蕪を以て堅く巻縛するものである。

期様に接ぎ終つたならば之れを春期發芽前迄は地中
へ深く埋め置き他の之れと同種類の樹木が將さに萌芽を
始めんとする前之れを掘り出して豫て整地せる畑地へ二
三寸の距離に一芽位を地上に表はして植込むのである。

三 三 合 接 法

此法も接穂と砧木共に殆んど同大なるもので揚砧に根首
接を施して能く活着するものである。

凡べて揚接なるものは前年の秋季落葉の時より翌春施術
前迄に砧木を悉く掘り來り之れを別地に假植し置き一
時に澤山接木するものであるから柿、栗の如き直根多く鬚
根少き種類と生長遅れて直經二三分以下の勢力微弱なも
のには施す事が出來ないから之等は其儘畑地に置き居
接にせなくてはならないが其他
桑、梨、栗、梅、桃、李、杏、枇杷、柑、橘、石榴、林檎等の種類にあつては此
法を施して悉く活着する處が此法は施術が稍々困難の傾
きがあるから接木術に未だ不熟練のものは先づ他の切接
法の如き簡便なる法より始めて然る后之れに依つて試験
するが良いと思ふ然しながら此方法は恰も舌接法の如く
發生層の接合部面が割合に多くして巧みに削り合したなら

ば速かに相互の樹液を循環し得るから最も良法である
思ふ。
其法先づ臺木の根頸を去ること一寸位の處を薄齒の接木
鋸を以て平坦に挽き切る、又更に一寸以下即ち根頸の處を
凡ろ三分の一位の鋸を以て挽き目を入れ之れを縦にして挽
き目を付けたる部分を割り取り、其鋸切面及割面を銳利な
薄齒の刀を以て極滑らかに板臺の上に乗せて削る、而して
穂は二寸―三寸位で二三芽あるもの下端を亦同じく三
分の一位切り込み、長さは一寸、木杯に合せて一寸に定め置く
が便利である、尙ほ平滑に削りたるものを砧木に合せ上下
及側面共に能く密合せしめて巻絡するのである。

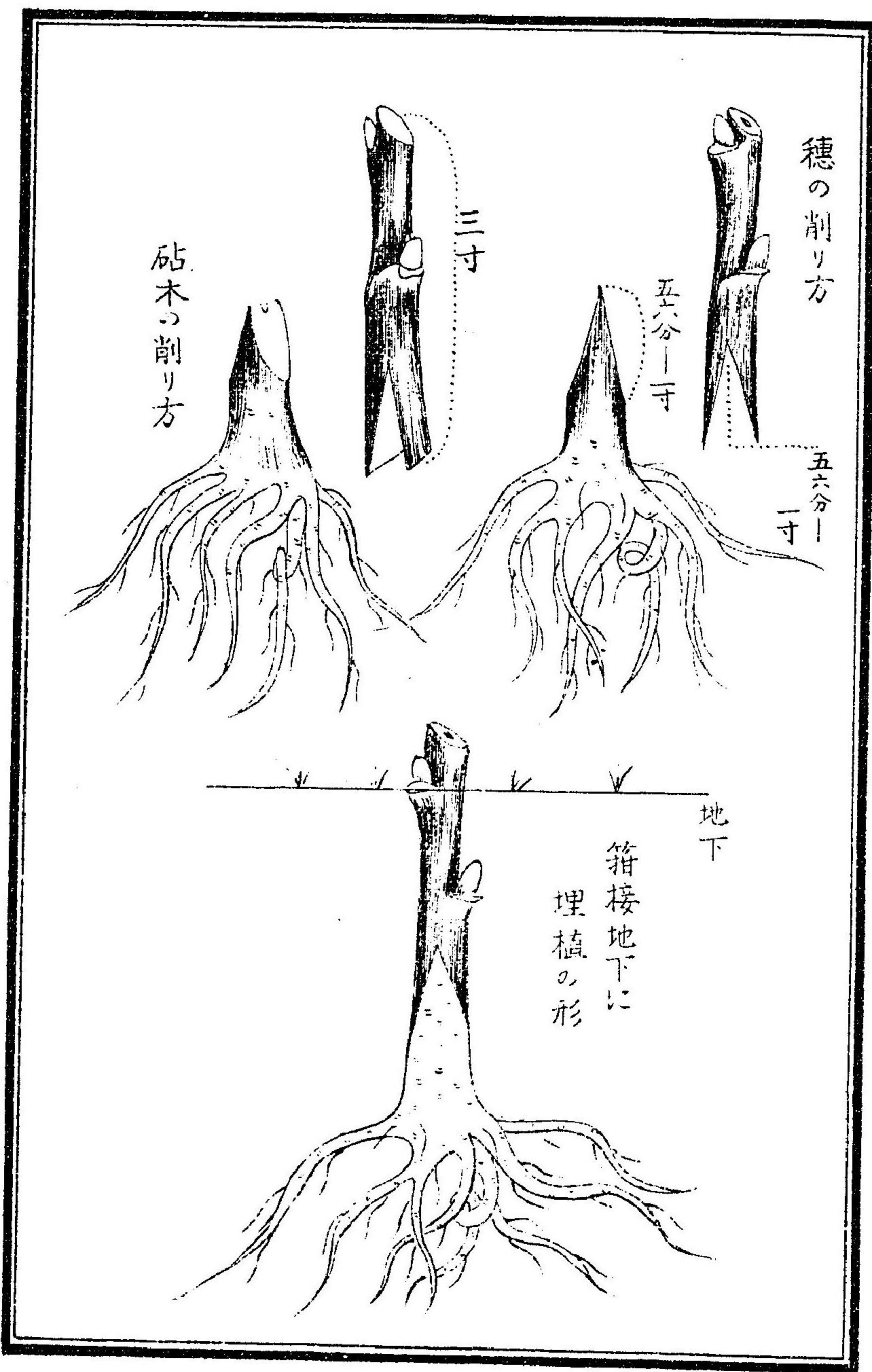
二四 鞍接法

實驗苗木仕立法

此法は臺木接穂共に殆んど同大なるものに施すものにして松の割接法を正反對に施すが如き方法である。

先づ二芽—三芽ある穂を一寸五分—三寸位に切截し、而して両端は平らに利刀を以て切り去り其下端の中央を縦に少し割り其割り目を内部より鞍形になる様、長さ五六分—一寸位削り取るのである。割り目より両端に向つて削り取る場合には可成銳利にして薄齒のものでなくては能く平滑に削り取る事が六かしい、其から臺木は根頸を去ること一寸位の處を切り去り之れを穂の側面と同じ長さに両側より上に句つて斜に楔形に削る、而して前に拵へ置きたる接穂を上より之れに箱入して相互両面の發生層をして能く密合せしむるのである、斯様にして施術が終つたならば、

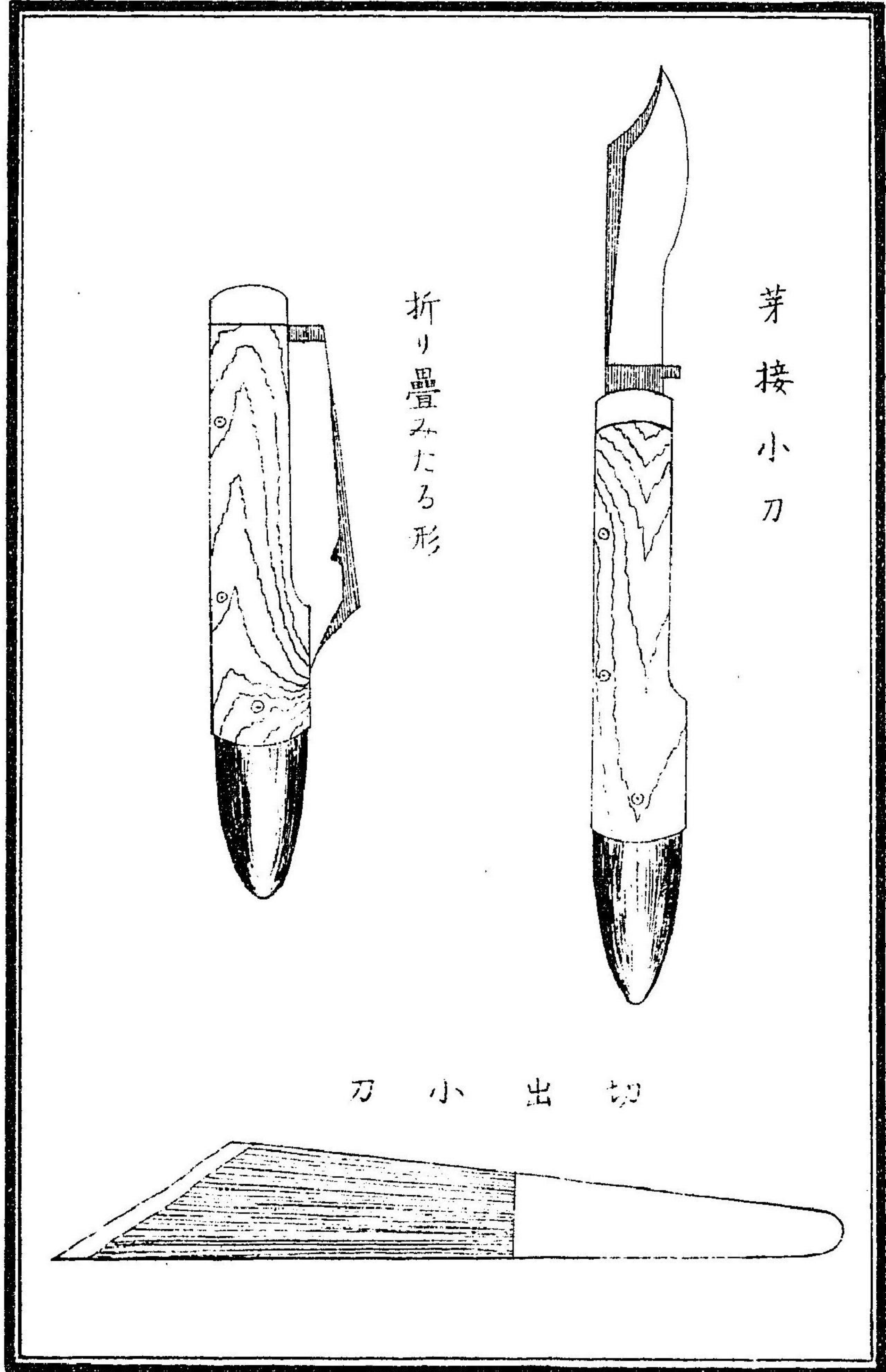
鞍接法説明畫



法立仕木苗驗實

打糞を以て堅く巻縛して之れを別地に二三寸一尺位に
 距離を置ひて栽植肥培すれば自然發芽するものである。
 此法は其穂の下端を鞍形にし莖木に跨がらすを以て自
 然水の浸入を防ぎ尙ほ發生層の接合部の廣き等は普通
 接木法に勝るも其切削面の長短を能く接木の大小に應じ
 て拵へざれば結果が宜しくない、其穂木砧木共に稍々
 大きものに切削面の長さを五六分に止むる時は之れを巻
 絡する部分比較的短きを以て癒合せんとするときは肉を以
 て能く持ち上げ密接を缺ぐに至り自然接穂の勢力微弱と
 なり遂に枯死するに至るものであるから直徑五分以上の
 ものならば其切削面を一寸以上長さ五分以下ならば
 五六分に止めるので要するに、巻絡して能く支持し得られ

畫明說具用木接



折り疊みたる形

芽接小刀

刀小出切

尙ほ癒合の爲め脱出せない程度に止めるのである。

●芽接法總論

芽接法なるものは高接法と同じく地上の枝幹に施す方法であるが穂が枝梢でなく其隠芽であつて極緻密細微なる取扱をするのと主として盛夏の候に施す点が相違する故に芽接法を輯めて丁字形、上字形、十字形、皮芽接、管芽接、H字形の六法として高接法と分別して記載するのである。元來芽接法は接木の施術中最も容易簡便なるもので又最も確實なる方法である。桃、梨、李、梅、巴旦杏、牡丹、杏、梅、桃、華果、榎、杏等の如きものは殆んど百發百中一つの失敗もなく悉く活着するものである。

又此等の種類は能く大樹の枝梢に施して活着するから其梢端は悉く異種に改良することが出来る、故に大樹は能く五六種以上の果實を結成せしむるが如き奇觀を裝ふことを得る、余は嘗て野生の桃砧に之れを施して巴旦杏、牡丹、杏、桃、梅、杏の五種を結果せしめつゝある處が此芽接法は一年生實生臺木に施すのが普通であるから大樹を接換するには豫め春季發芽前其枝を適當の處より悉く截り去り截断面を利刀を以て平滑に削り腐敗を防ぐ爲め接蠟紙を貼付し置く斯様にすると其枝に澤山萌芽伸長するから其年盛夏の候之れに芽接法を施せば確に失敗なく活着する。如斯能く大樹の枝梢に接ぎ得るから奇品良種の結實を早く見たいと云ふ場合に此法に依つて其端末に接げば二ヶ

年の后には既に成果を誠むることが出来る其他便利の点を列記すれば大略こんなものである。

一 高接法と根接法とに論なく春期の施術を誤つたときは其年直ちに臺木の芽に應用するから一旦改良を企圖したものは是非同年に於て實行し得る。

二 此施術は葉柄の内部にある隠芽を接ぐのであるから貴重種の種類にして種穂の極小数の場合にも比較的多数の接木を爲すことが出来る。

三 芽接法は施術后五六日間にして既に活着せるものと否らざるものとを確實に識別することを得る。

四 芽接法は癒合の期間が早いから年二三回も引繼ひて施行することが出来る。

五 芽接法は臺木の枝幹を截り去るのでないから臺木の勢力は毫も衰へない。

六 芽接は其切傷部面が狭いから癒合が早いに随つて挽がれる氣遣が少ない。

七 芽接法は一本の枝幹にして能く同所に數種を接ぎ得る。

八 芽接法は異種の接合せが自由自在であるから或る觀賞苗木の仕立に最も適して居る。

九 芽接法は本年實蒔又は挿木をして本年直ちに施行することが出来る。

二 芽接法は盛夏の候施術するものであるから整地、挿木、播種、移植等の春期の仕事を防げない。

前述の如く芽接法は手術が極細微であるから穂の如きは

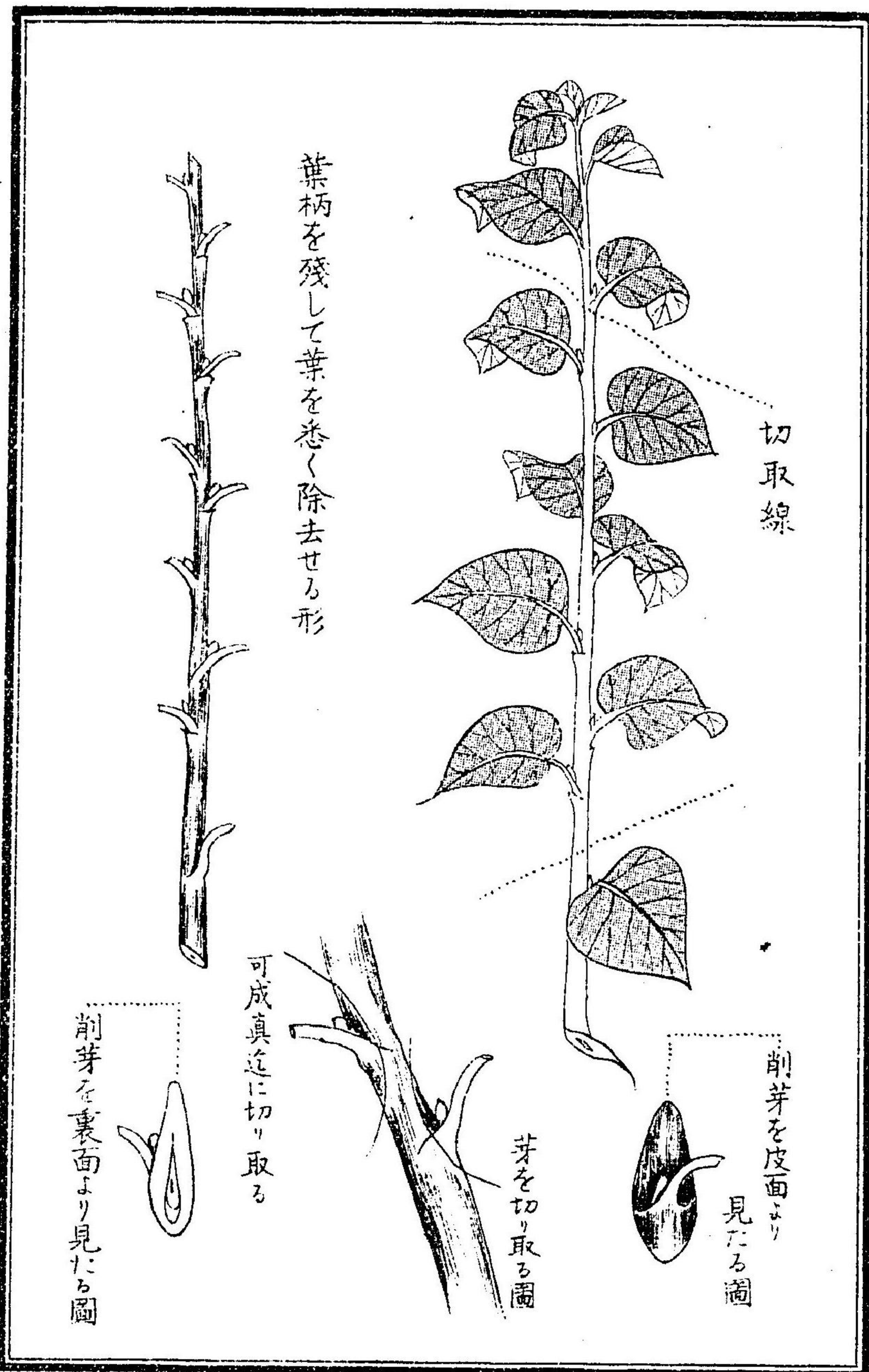
何回も削り直すと云ふ譯に行かないから芽接用小刀の如
き鋭利なものでなくてはならない、尤も小數ならば割刀で
も行れるが割刀と云ふ奴は金を能く鍊ふてあるから切れ
味は良いが此方の詔へ向きになつて居ない齒を向ふへ持
つと透しの面が下になる強て用ふると芽を深く切り込ん
で仕方がないから一方齒の末端へ布片を巻き付け正反對
に持つて使用するれば行れる。

二五 丁字形芽接法

此法は芽接法中最も簡便なるもので殆んど各種に通じて
行ひ得らるゝ普通の芽接術である。
其法先づ八九月の頃新梢の隠芽既に固着して枯木の新芽

正に生長を止めんとする時を認めて接ぐ可き新梢を切り
來る、而して芽の附着せる部分は悉皆接木の用に供するこ
とが出来来るが可成下端二三葉――五六葉以下を切り端末も
全じく二三葉――五六葉以上を切り捨て其中央部を芽接用
にするので葉柄を殘して葉を悉く切り去る、而して葉柄の
裏に在る芽を稍々木質を附して薄く小刀を以て搭ぎ取り
先づ之れを乾燥を防ぐ爲め口中に含み置く。
而して臺木は一二年生實生臺木にして地上一二寸の處を
丁字形に負傷せしめ之れを芽接用小刀の籠又は竹を薄く
削つて製したる籠を以て縦傷目の皮を両方に向つて開發
する、而して之れに豫め口中に含み置きたる芽を挿箱し糸
或は打葉を以て芽の上下の皮を被ひて徐々に巻絡するの

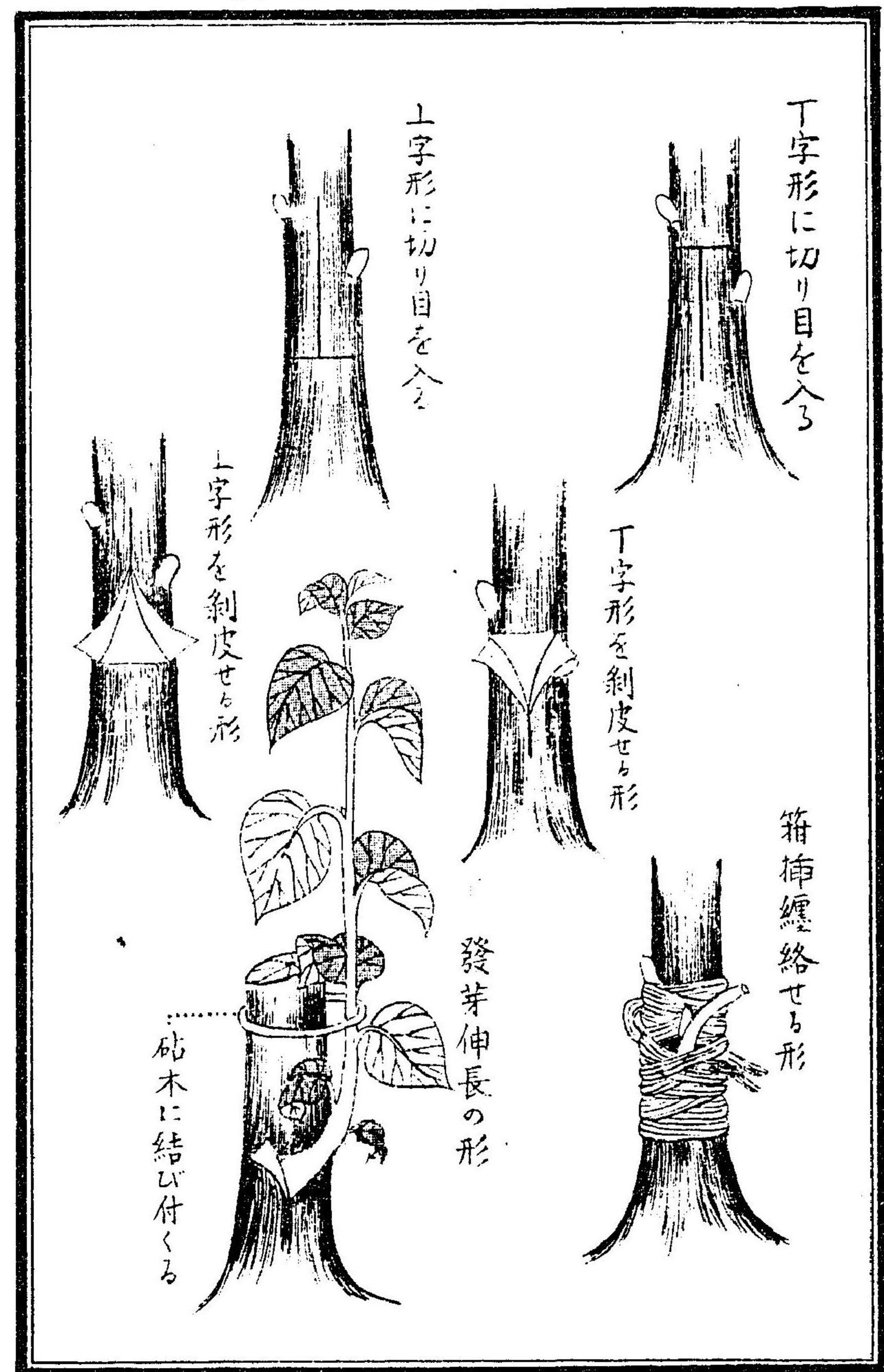
である。
 斯様にして后六七日位日間を置き其葉柄に手を静かに觸
 れて見る、其時恰かも落葉時期の如く漸かの接觸に容易く
 ホロリと遂落すれば最早大丈夫確かに活着して居るから、
 糸を以て巻絡したるものは其糸を少し緩めて置く其れは
 臺木の勢力未だ強壯なるものに接ぎたる場合は成長する
 に應じて糸を以て縊れ目を生じ後日に害を爲すからであ
 る、尤も打葉を以て巻絡した場合には斯る手数は要さない、
 而して其年は手入れは要らないが翌春發芽前接目より一
 寸位上を切り去りて萌芽伸長せしめ臺芽は常に注意して
 挽ぎ取る、其れから一尺四五寸に伸長した時は臺木の端末
 へ打葉を以て結び付け其幹をして直立に伸長せしめ固定



法立仕木苗驗實

したならば臺木の接芽以上の端末を滑かに切り去り接芽の成長に應じて癒合せしむるのである。因に云ふ柿の芽接は頭底出來得べからざるものとして世は既に是認して居つたのであるが明治三十八年池田農學士が始めて柿の芽接を五月十四日試験せられた結果殆んど二分の一は活着したと云ふ答按が大日本農會報に掲載してある余も亦これに倣ふて、より以上の成績を上げて見たいと云ふ考へから種々の方法を異にして試験を重ねて見たが何うも活着の歩合が五六割位の事で到底他の種類に接法の如く百發百中と云ふ様な甘い譯に行かない代りに既に萌芽伸長したる前年生の枝梢の基に存在する隠芽を以て芽接し得る事を發見した。

畫明説法接芽形字上下



以上の如く柿の芽接は其時期に依つては活着すると云ふ事は確かであるから絶体に接ぎ得べきものでないとは斷言する事は出来なくなつて居る、故に前途益々試験的施術の必要があると思ふ諸氏宜しく研鑽の上良結果を得れば敢て教授の勞を吝むなくんば幸である。

二六 上字形芽接法

此法は丁字形芽接法を反對に行ふ術にして是亦容易に活着する方法である。全体植物の負傷面を癒合せしむる爲め肉を盛る力は其養液の上昇のものよりも下降の方最も速かなるを見る余は此上字形芽接法を實驗するに於て枝葉より下降する樹液

と根より吸收せらるゝ上昇の樹液との負傷面の癒合力を單獨に比較試驗する爲め種々の種類の幹枝を管狀に幅一寸位皮を剥き取り之れに雨紙を巻き置き十日間の後之れを實視するに下部の切皮面は僅かに肉の盛り上がる位なるも上部よりは肉の癒合盛にして殆んど下部に接着し尙ほ外部に向つて太く環狀に凸起せるを見る、故に接穂の活着力も随つて上昇のものに勝れるものと斷定することを得るも上字形に臺木を負傷するときには接芽は上部に向つて後挿するのであるから接芽も同じく接芽の上部より削り取らねばならぬ處が隠芽を削り取る場合に於て之れを芽の上から小刀を入れると云ふ事は施術上頗る困難であつて動もすれば木質を深く切り込み或は淺きに過ぎて隠芽

を切り去る等の失敗があつて仲々巧く上に向つて挿し
得る様に削り取らるゝものでないから普通の種類に行ふ
方法ではないと思ふ處が此方法を柑橘類の如き芽の在る
部分殊更に凸起せるものにあつては之れを上より削り去
るも能く平滑に自由自在に削り取る事を得るから斯の如
き種類に施して最も便利である。
其法先づ鋭利なる芽接小刀を以て新梢の芽を上部より長
さ五六分に薄く稍々木質を附して削り取り之れを口中に
含み其切り取りたる残りの新梢は葉を除去して施術中水
中へ挿し置くのである。
而して臺木は地上一二寸の處で節又は傷なき處を撰び先
づ横に一線切り目を入れる、更に縦に上部へ上字形になる

様切り目を入れる、而して縦切り目を兩方へ篋を以て開き
之れに穂芽を挿し除々に押し上げ若し芽の下端の薄
皮が余つたならば横切目に箱込み得る位に切り去る、而し
て糸或は藁を以て巻絡するのである。

二七 十字形芽接法

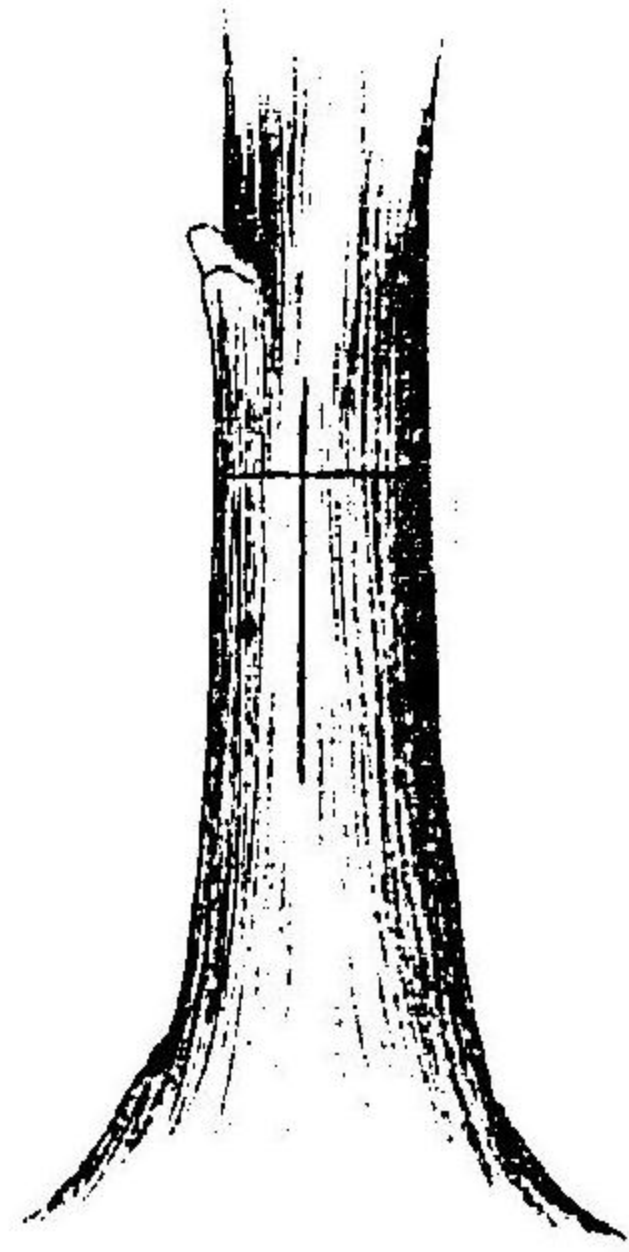
此法は普通の芽接に行ふ方法に非らざるも臺木の割合に
接芽の非常に太くして丁字形又は上字形芽接法を施すこ
と能はざる時に此法を施して最も便利である、梨樹の剪定
せる新梢より接芽を取る時は往々斯の如き太き隠芽を形
成せるものがあつて之れを一年生の成長の遅れた臺木に
接がんとするとき等に數々相遇するものである。

法立仕木苗驗質

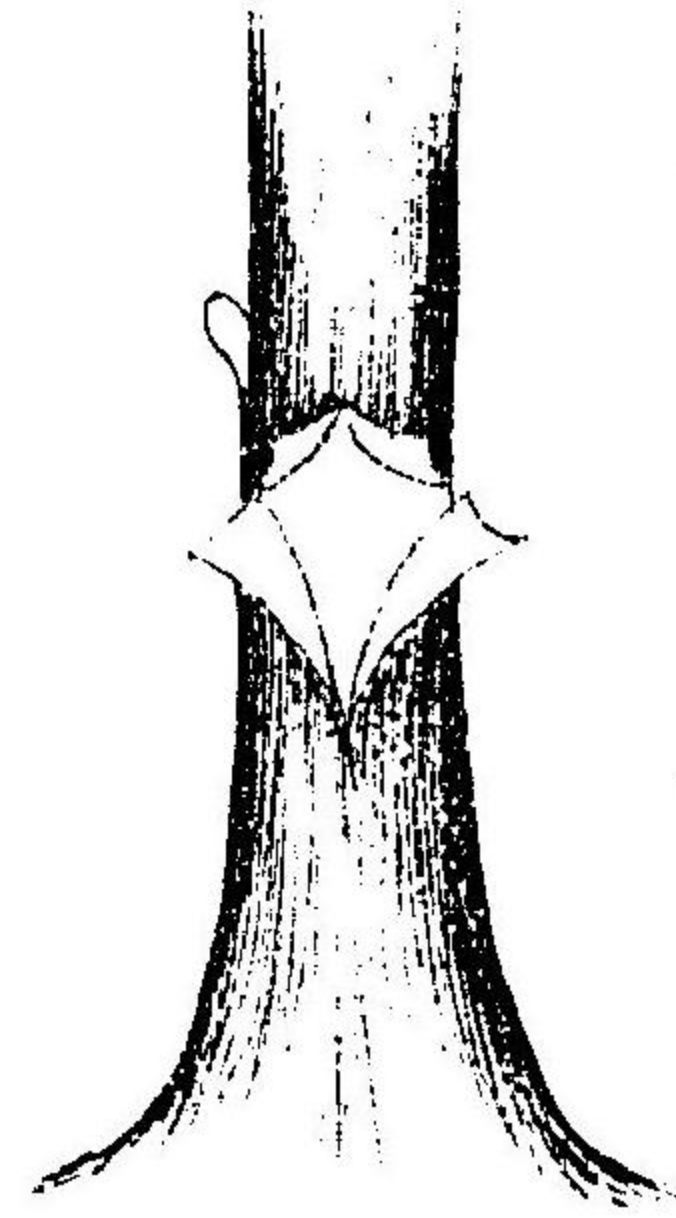
此法先づ丁字形芽接法に於て述べた如く葉柄を殘して葉を切り去りたる隠芽を下部より鋭利なる芽接用小刀を以て削り取るのであるが、芽の太きものは往々にして小刀を普通芽接法の如く入れるときは芽を切り込み又は芽丈けに切り止め上部の皮を存せざる等の失敗があるから、太き芽を削り取る場合には豫め小刀の齒の向ふ位置を考へ凡そ此邊にて切り取つて宜しと云ふ處へ見込を附けスツと一ツの刀の元に削り取るのである、如期して五六分の長さに切り削るを滑らかに削り取つたならば之れを先づ口中へ貯へ置く。

十字形芽接法說明畫

十字形に切り目を入れたる形



十字形を剥皮せる形



削り取りたる



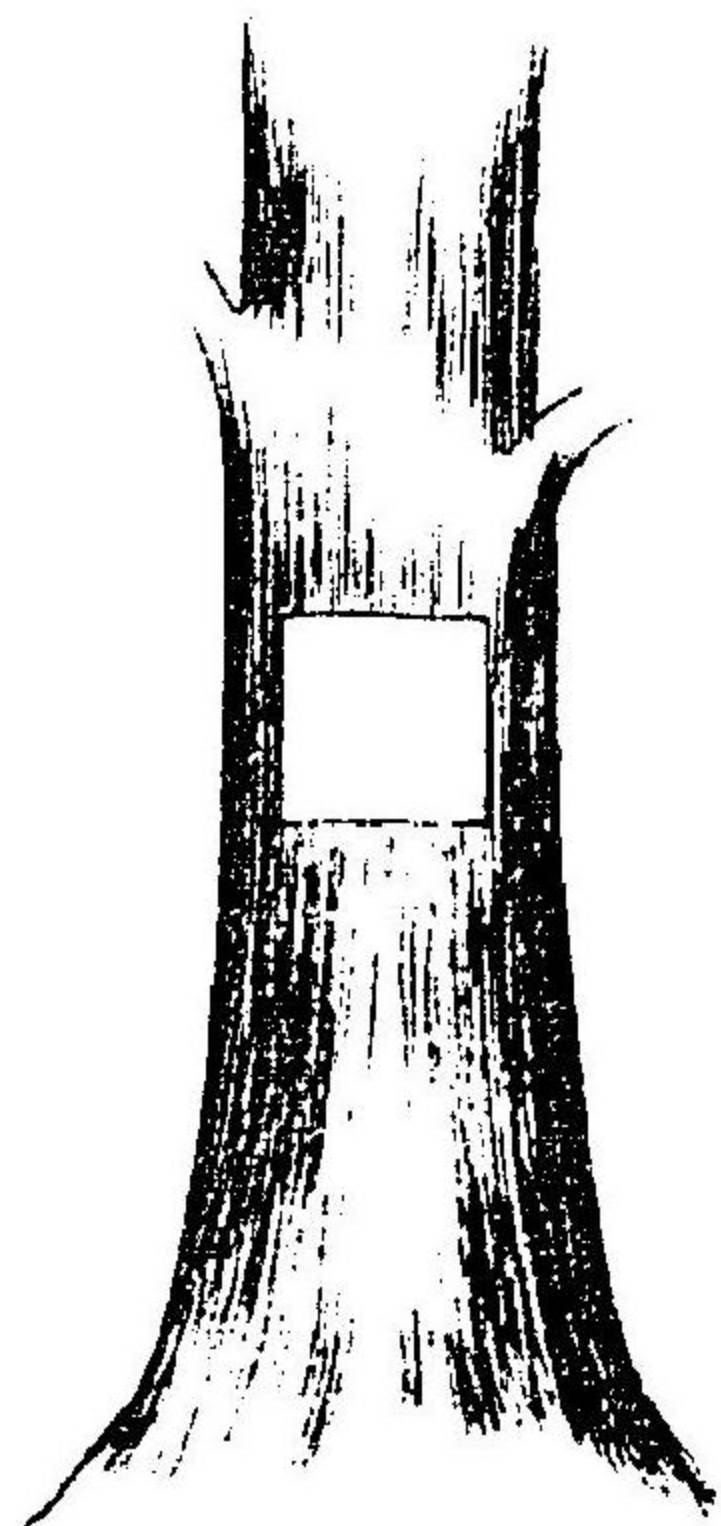
穂目



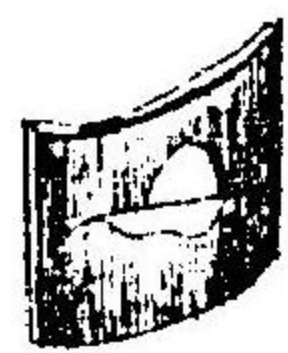
箒挿纏絡せる形



砧木を方形に剥ぎ取りたる圖



穂芽の皮を剥ぎ取りたる圖



打藁を以て纏絡せり圖



發芽伸長の圖



じて二三分上より縦線を稍々長く五六分位十字形に引く、
而して横線上下の皮を篋を以て開發し置き豫て口中に含
み居れる穂芽を先づ横線下の皮を開きて挿箱し然る后上
部の皮を一方より交互に開きて被ひ皮層と木質の間へ能
く密接せしめる、而して糸或は打藁を以て稍々堅く芽の上
下を巻絡するのである。

二八 皮芽接法

此法も亦普通に行はるゝ方法ではないが桑、胡桃或は櫻桃、
李等の二三年生砧木の如き皮の厚き種類に行へば結果が
良い、皮の厚きものに普通の芽接法を施すときは皮を剥ひ
で芽を箱挿する場合は困難であるのみならず術後臺木は切

傷の癒合を接芽の上よりする、即ち肉を接芽の上に巻き附けるから遂には其芽は黒く變色して枯死する。又果樹類中で柿、栗等は仲々普通の芽接術を施しては容易に活着せしむることが出來ないが就中栗は此皮芽接法を施して活着せしむることを得る。此法は春秋兩期に渡りて施すことを得るが春季は接穂砧木共に暖氣の候に遇ひ盛んに樹液の循環を始めた頃より秋季七八月頃まで即ち新芽の伸長遅緩となり將さに樹液の循環を停止せんとする時に終るのである。春季施行する場合には前年伸長せる枝を切り來り芽の存在せる皮を長さ三四分—五六分幅二三分—四五分位方形に切り薄篋を以て剥ぎ取り之れを砧木の之れと同大に皮

を剥ぎ去りたる后へ箆接して繆糾するのである。秋季は其年伸長した新梢にして芽の固定せるものを前の如く取扱ふのであるが春季の施術に比して葉柄の存する丈け施術容易である、此法は前述の如く切り去りたる砧木の皮と接がんとする皮芽とは同大なるを要する故に豫め竹篋又は小刀等へ度目を刻み込み之れに比して切り目を入れるときは廣狹不同なく能く整一に切り取ることが出來る。如斯して所要の芽接が終つたならば之れに豫て拵へ置きたる接蠟を芽の上下へ風雨の浸入せない様に環狀に塗沫すれば一層良好の成績を得る。

二九 管芽接法

法立仕木苗驗實

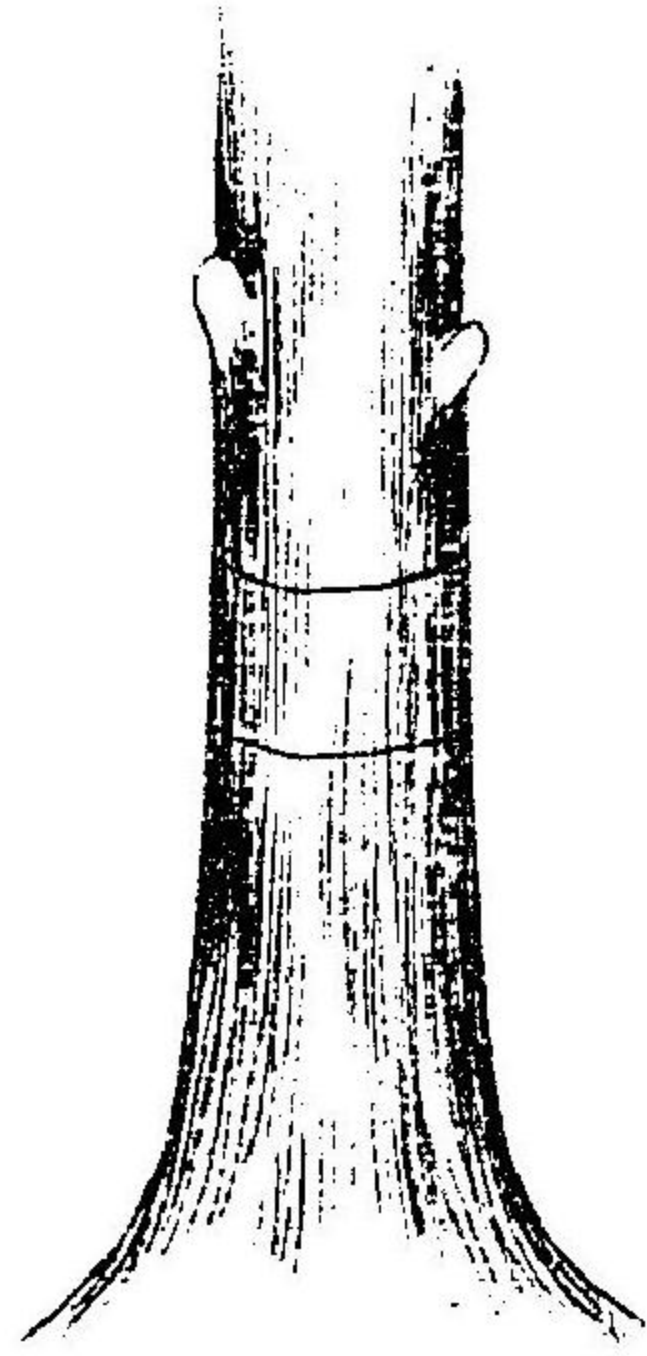
此法は皮芽接法と其施術殆んど同じ方法で只其接芽の皮の剥離の方法を異にするのみであるが皮芽接法よりは一層良法である。

全体芽接法なるものは他の種類に在りては百發百中悉く活着するものであるが栗と云ふ奴は普通芽接法では容易に活着するものでない故に余は栗の芽接を皮芽接と此方法の二法に於て試験的に施術したが皮芽接よりは此法に依るの一層好果あるを認めたるのである。

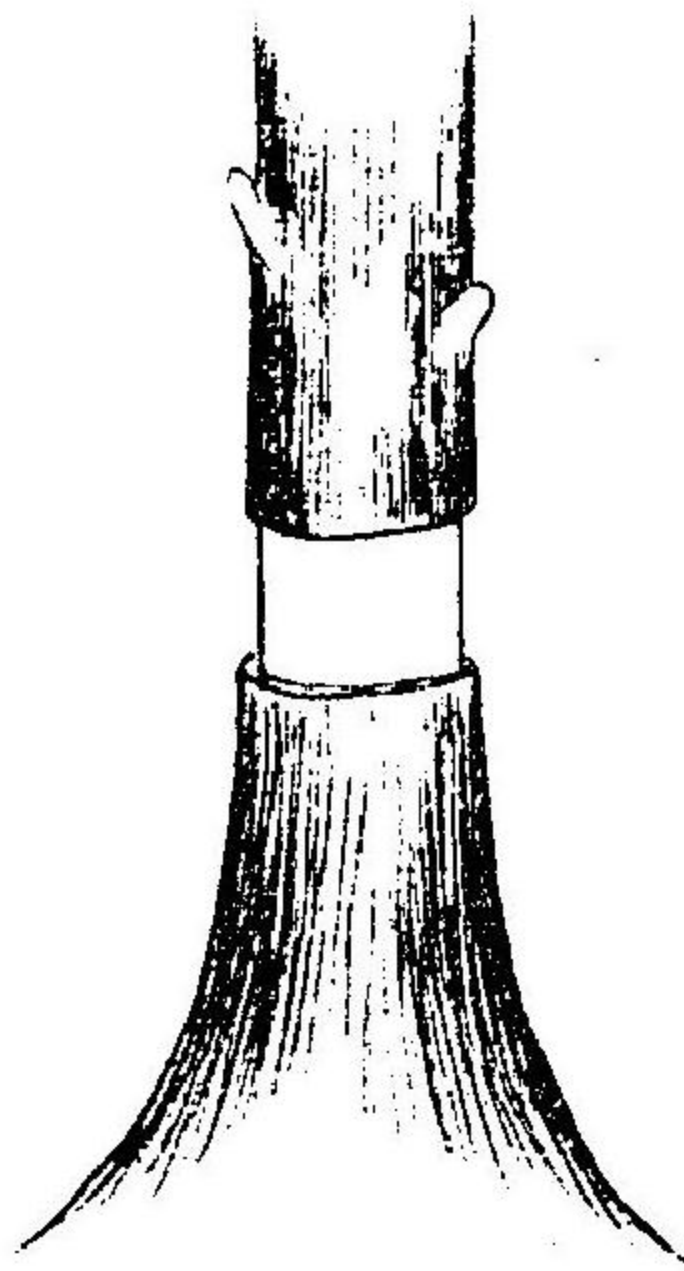
其法先づ春季は四五月頃盛んに樹液の循環を始め穂木臺木共に皮の剥離し易き時未だ萌芽せない隠芽の附着せる枝を取り來るのである、此隠芽は本年の新芽四五寸に伸長せる時にても殆んど凡ての種類に二年生の枝の根元に附

畫明説法接芽管

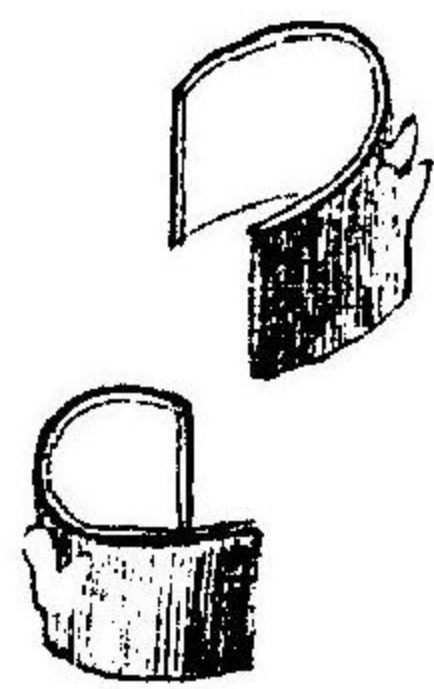
砧木に管狀の切り目を入れたる圖



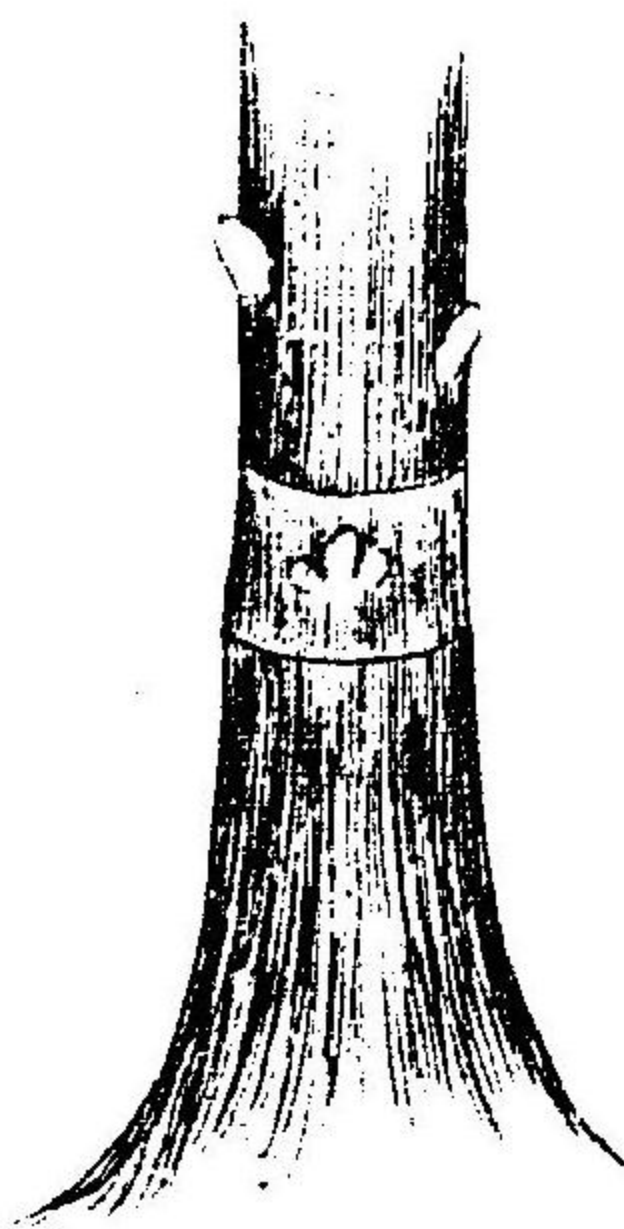
砧木の皮を剥ぎ取りたる圖



穂芽を管狀に剥ぎ取りたる圖



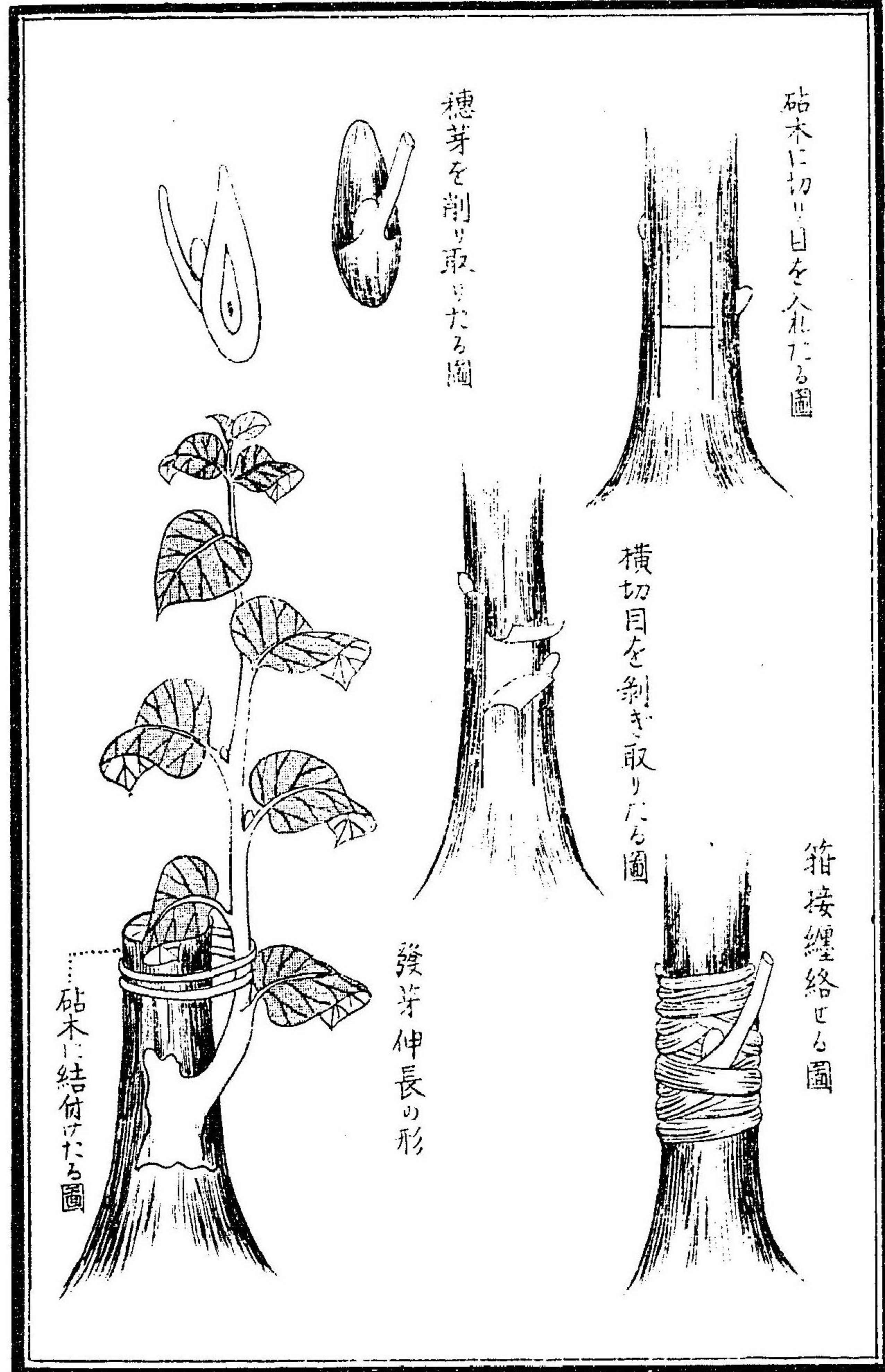
管芽を箱接せる圖



法立仕木苗驗實

着せるものである、其れは草木の性として頂端の新梢に勢
 力を奪はれ根元に附着せる前年の隠芽は其末端を切斷し
 て樹液の上昇を遮斷するに非らざる限りは一二年間は其
 儘萌芽せずして現存するものであるから此芽は随時剥ぎ
 取り使用するこゝが出来る。
 而して此隠芽の上下を四五分の幅に利刀を以て環状に横
 に二線切り目を附ける、此環状の切り目は極注意して巾の
 廣狹なき様能く真横に切り込む、而して芽の真裏に當る皮
 を從に切り其切り目に篋を入れ靜かに兩方に向つて剥皮
 すれば環状の管芽を得る。
 臺木は一二年生の實生苗にして地上一二寸の節なき位置
 を撰び管芽と同じ幅に寸木を比して切り目を入れ一方よ

畫明説法接芽形H



り皮を剥ぎ取り之れに管芽を締め込む若し臺木の剥面の
長さより長きときは一方を台木に合せて切り捨て管芽の
縮みて皺を生せない様能く密接せしめ糸又は打葉を以て
芽の上下を巻き付け之れに接蠟を芽を残して環状に切傷
皮部へ塗付するのである、秋季は七八月の候樹液循環の稍
々遅緩となりたる頃行ふので穂木は其年伸長して芽の固
定せるものを使用する手術は春季と別に異りはない。
尤も春季施行のものは活着后直ちに其梢端を截り去るの
である。

三〇 H形芽接法

此法は讀んで字の如くH形に剥皮する方法であつて是亦

臺木接芽共に大なるものにして丁字及上字形芽接法を施
す事六ヶ敷場合に行へば最も良ひ。
全体芽接法なるものは皮芽接管芽接を除く外は其手術最
も容易なるもので亦随つて活着の確實なるものであるが
若し接芽にして臺木より比較的大なるときは往々活着を
誤ることがある、如斯場合には其方法を異にして十字形に
なし或はH形に行ふ等臨機の施術を行らねばならぬ、故に
芽接術は最も容易なるものとして斯る微細なる点に注意
を缺くと好成绩を見ることが出来ない。
其れから芽接を行ふ時期は七八月の頃にして炎天砂を焼
くと云ふが如き候であるに尙ほ接芽の大なるものは活着
力稍々薄弱であるから特に接穂を乾燥して衰弱せしめな

い様に穂木を切り取つたなれば直ちに葉を葉柄を残して
悉く切り去り濕布で包巻して置き之れを施術に臨んで一
本づゝ取り出し普通芽接法の如く芽の下部より刀を入れ
て芽に切傷を附せざる限りに薄く削り取り其芽は口中に
含み枝は又元の如く濕布に包み置く。
而して砧木は長さ巾共に接芽に應じて始め縦に二線切り
目を入れ後更に名の如くH形に中央を横に切り目を入れ
る、而して横切り目を篋を以て上下に剥皮して前に口に含
み置きたる芽を其葉柄を以て緩かに依挿するのである、接
芽を箱挿する際強く押し付けるときは形成層の細胞組織
を破り活着に困難するから勉めて注意せねばならぬ、施術
が終つたなれば上下の皮を被ひ糸或は打藁を以て芽の上

下を巻緒する、而して接蠟紙を貼付するときは一層良好で
あるが之れを使用せないでも大底活着するものである。

● 結論

以上説述せる苗木及び樹木の蕃殖改良法は余が十ヶ年間
實地圃場に就て悉く實驗を経たものへ尙ほ公務の傍ら四
ヶ年間常に苗木仕立法を世に公けにするに就て誤謬なか
らしむ爲め種々なる方法を以て試験を重ね漸く今回完成
を告げたるものであるから確に斯道の啓發に値ひするも
のであることを自負するに憚らざるも如何せん文章の卑
劣にして吾人の意思を十分感動的に發表することが出来
ないから一讀の基に讀者をして直ちに執刀せしむるが如

き明績なる能はざるは吳々も終生の恨事とする處であるが又翻つて思ふに各種技術者の技能を修得する上に於て能く先輩者の實地指導の許に訓練するに非らざる限りは其濫與を究むること又た頗る難事と謂はざるを得ないのである況んや一片の拙著に於て之れが指導を受くるのであるから一の方法を識る爲めに只一の方法を披見するが如き經忽の事を爲さずして宜しく全編を通じて再三再四熟讀翫味能く腦裏に印象せしめ然る后徐ろに斯業の實地に着手せられん事を望む。

而して余は此再三再四の熟讀に殖せざる著書の爲めに責任を以て敢て讀者の質疑に應答するを捲厭せないのである、以て結論とする。

● 驗實 苗木仕立法 終

● 附

錄

年 中 行 事 曆

一 月

移 植

施 肥

二 月

移 植

接 木

降雪なくして地表凍結せざれば棗、柑橘、を除く外

果樹、觀賞樹、林樹、類の移植を爲し得る。

果樹、觀賞樹、工藝用樹、類の施肥を爲す。

降雪なくして地表凍結せざれば棗、柑橘、を除く外
果樹、觀賞樹、林樹、類の移植を爲し得る。

中下旬の頃より快晴の日に於て梅、松、樅、等の接木

三 月

を爲し得る。

上旬

播種

接木

挿木

移植

中旬

播種

接木

柿、櫻、郁桃、杏、李、梅等の種子を播下する。

梅、スグリ、松、樅等の接木を施行する。

梅、スグリ、葡萄、楓、樟、薔薇等の挿木を執行する。

桃、栗、葡萄、華果、梨、李、榎、柿、胡桃、杏、巴旦杏、牡丹、杏、梅

櫻桃、茶、苺、須具利其他觀賞樹及林樹類等移植を行

ふ。

梅、桃、栗、林檎、梨、杏、李、松、櫟、檜等の種子を播下する。

桃、華果、梨、杏、李、梅、櫻桃、茶、苺、スグリ、桑等の接木を執

移植

下旬

播種

接木

挿木

行する。

桃、栗、葡萄、華果、梨、無花果、榎、柿、胡桃、巴旦杏、牡丹、杏、櫻桃、桑、椿、三椏、桐、漆、松、杉、扁柏、櫟、檜、其他觀賞樹類等の移植を行ふ。

松、桐、杉、扁柏、櫟、檜、漆、三椏、林檎、葡萄、無花果、櫻桃、胡

桃、牡丹、杏、巴旦杏、櫻等の種子を播下する。

桃、華果、梨、杏、李、栗、葡萄、楓、樟、柿、巴旦杏、牡丹、杏、梅、櫻桃、

椿、茶、梅、南天、瑞香、木瓜、庭櫻、花櫻、海棠、花梅、茶、梅、

花、柘、榴、松、薔薇、楓、榎、木蓮等の接木を執行する。

李、榎、樟、牡丹、杏、巴旦杏、梅、櫻桃、葡萄、スグリ、無花果、枇

杷、柘、榴、桃、林檎、梨、杏、杉、檜、アスナロ、其他觀賞樹等

四月

移植

の挿木を施行する。
栗、葡萄、無花果、枇杷、石榴、杉、扁柏、松、樅、檜、櫛、桑、漆、楮、三徑、其他觀賞樹等移植を爲す。

上旬

播種

杉、扁柏、松、樅、檜、櫛、桑、漆、楮、三徑、柑橘類、無花果、榲、胡桃、棗等の種子を播下する。

接木

無花果、胡桃、栗、葡萄、榲、柿、李、華果、椿、茶梅等の觀賞樹類等を接木する。

挿木

葡萄、スグリ、石榴、榲、榲、無花果、桑、南天、薔薇等の挿木を施行する。

移植

柑橘類、無花果、石榴、棗、桑、其他觀賞樹、山林用樹類等

中旬

播種

接木

移植

下旬

播種

接木

移植

手入

の苗木を移植する。

杉、扁柏、松、樅、桐、柑橘等の種子を播下する。

無花果、枇杷、石榴、胡桃、柿、栗、桑、其他觀賞樹等の接木を執行する。

杉、扁柏、樅、櫛、檜、櫛、桑、漆、楮、三徑、柑橘類等の移植を施行する。

柑橘類及三徑種子を播種し得る。

枇杷、柘榴、棗及柑橘類等の接木を執行する。

柑橘類苗木の移植を執行し得る。

果樹、林樹類、床蓐種子の發芽せるものへ陰庇を設

五 月

上旬

接木

手入

柑橘類の接木を施行し得る。
床蒔の種子發芽の模様を見て陰庇を設くる必要がある、又既設のものへは除草水肥を爲しやらねばならぬ。

中旬

接木

手入

下旬

移植

柿、栗等の芽接を施行し得る。
床苗の除草水肥を施すの必要がある。
梨、桃、杏、梅、李等の床替を爲し得る。

六 月

上旬

移植

手入

中旬

採種

播種

下旬

採種

採種

床蒔の苗へ水肥及除草を爲す必要ある。

梨、桃、李、梅、李、林檎、柘榴、茱萸、櫻桃、花梅、花櫻、花桃、花柘榴等を移植する。

床蒔及畑蒔苗の除草水肥等の手入を爲す。

梅、スグリ、桑等の種子を採収する。

桑の種子を床蒔にする。但し採収直ちに播種するのである。

梅、スグリ、桑、杏、枇杷、三椏等の種子を採収する。

七 月

播種 枇杷、桑等の種子を採収直ちに洗滌播下する。

上旬

採種 杏、李、郁桃等の種子を採収する。

接木 梅の芽接を爲し得る。

中旬

採種 杏、李、郁桃、桃等の種子を採収し得る。

接木 梅、李等の芽接を施行し得る。

下旬

採種 杏、李、巴旦杏、牡丹杏、桃、林檎等の種子を採収し得る

接木 梅、李、杏等の芽接を施行し得る。

八 月

九 月

上旬

上旬

採種 桃、李、巴旦杏、牡丹杏等の種子を採収する。

接木 梅、李、杏、榲桲等の芽接を施行する。

中旬

採種 桃の種子を採収し得る。

接木 梅、李、杏、榲桲、梨、華果、桃、櫻桃等の芽接を執行する。

下旬

採種 桃、林檎、梨等の種子を採収し得る。

接木 梨、榲桲、華果、桃、櫻桃、牡丹杏、巴旦杏等の芽接を施行する。

十 月

採種 桃、梨、林檎等の種子を採収する。
接木 梨、華果、牡丹杏、巴旦杏等の芽接を執行する。
手入 苗床の日覆を除去する。

採種 桃、櫻桃等の種子を採収する。
接木 巴旦杏の芽接を施行する其他の種類も新芽の伸
長しつゝ、あるものは凡べて施行し得らる。

下 旬

採種 桃、櫻桃等の種子を採収し得る。

挿木 薔薇の類を床挿にする。

手入 床蒔苗其他苗木の除草を行ふ。

上 旬

採種 栗、棗、榧、蒲萄、無花果等の種子を採収し得る。

挿木 薔薇の挿木を施行し得る。

株分 榎、樟、柘、榴、梅、桃、スグリ、棗、木瓜、薔薇等の株分法を執
行し得る。

中 旬

採種 柿、栗、梨、榎、樟、棗、榧、蒲萄、無花果、林檎等の種子を採収
する。

根分 桑、桐、楮、雁皮、林檎、梨、棗、榎、樟、薔薇、海棠、木瓜等の根分
法を施行する。

移植 果樹、觀賞樹、山林用樹、類苗木の移植を爲し得る。

下 旬

十二月

移植 果樹、觀賞樹、林樹類、等の落葉樹苗木の移植を爲し得る。
手入 日覆を取除きたる稚苗へ更に霜覆及防寒の手當を要す。

移植 降雪なく温暖ならば、果樹、觀賞樹、林樹類、等の落葉樹を移植し得る。
施肥 接穂採取用母樹へ施肥する。
手入 上旬に於て陰庇を設けざる稚苗床へ防寒の手當を爲す。

明治四十二年十一月十五日印刷
明治四十二年十二月一日發行

定價金七拾五錢



著 者 松 永 幸 三 郎

廣島縣比婆郡口北村
大字宮内九拾參番屋敷

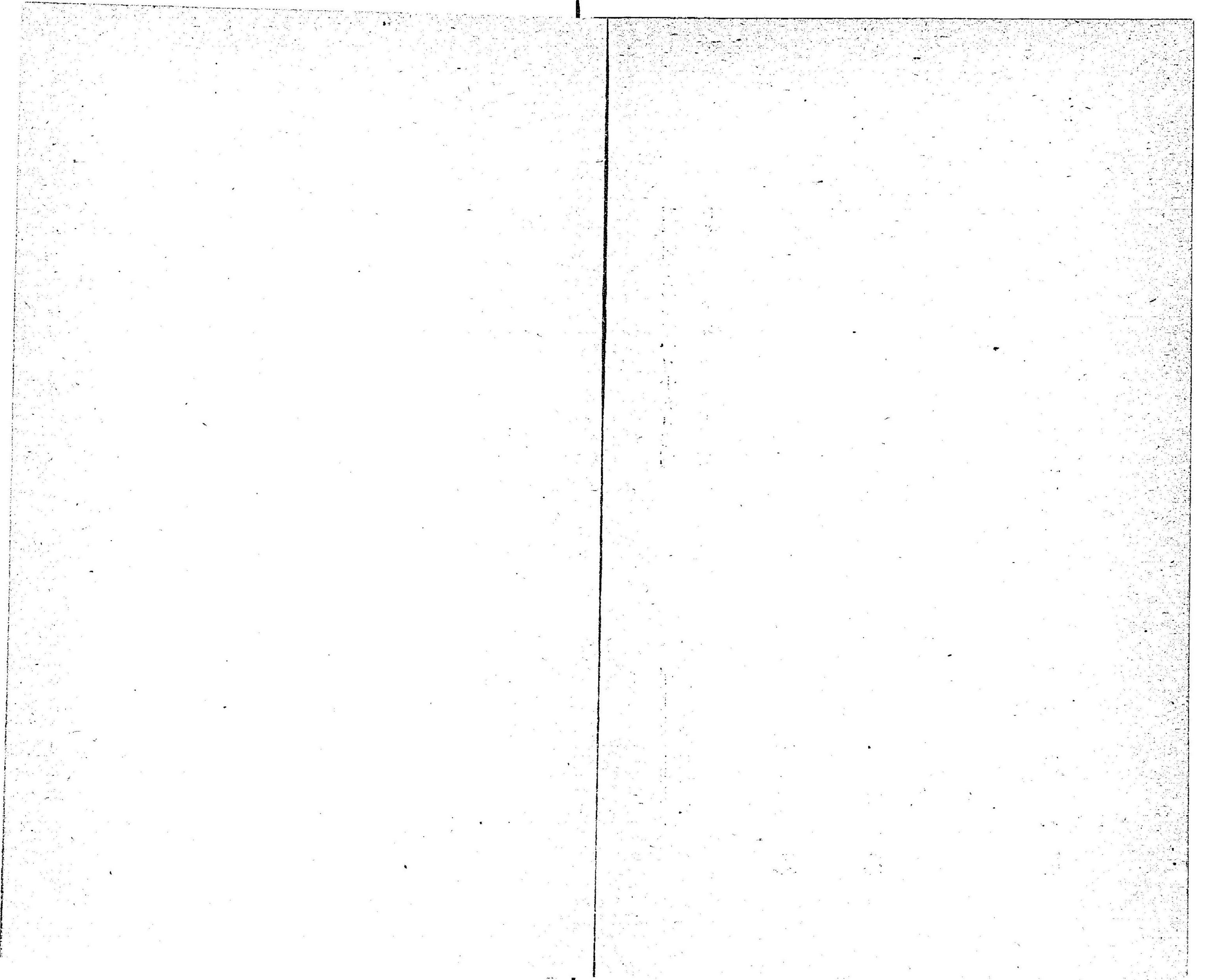
發行者 松 永 幸 三 郎

廣島市西引御堂町三十五番地

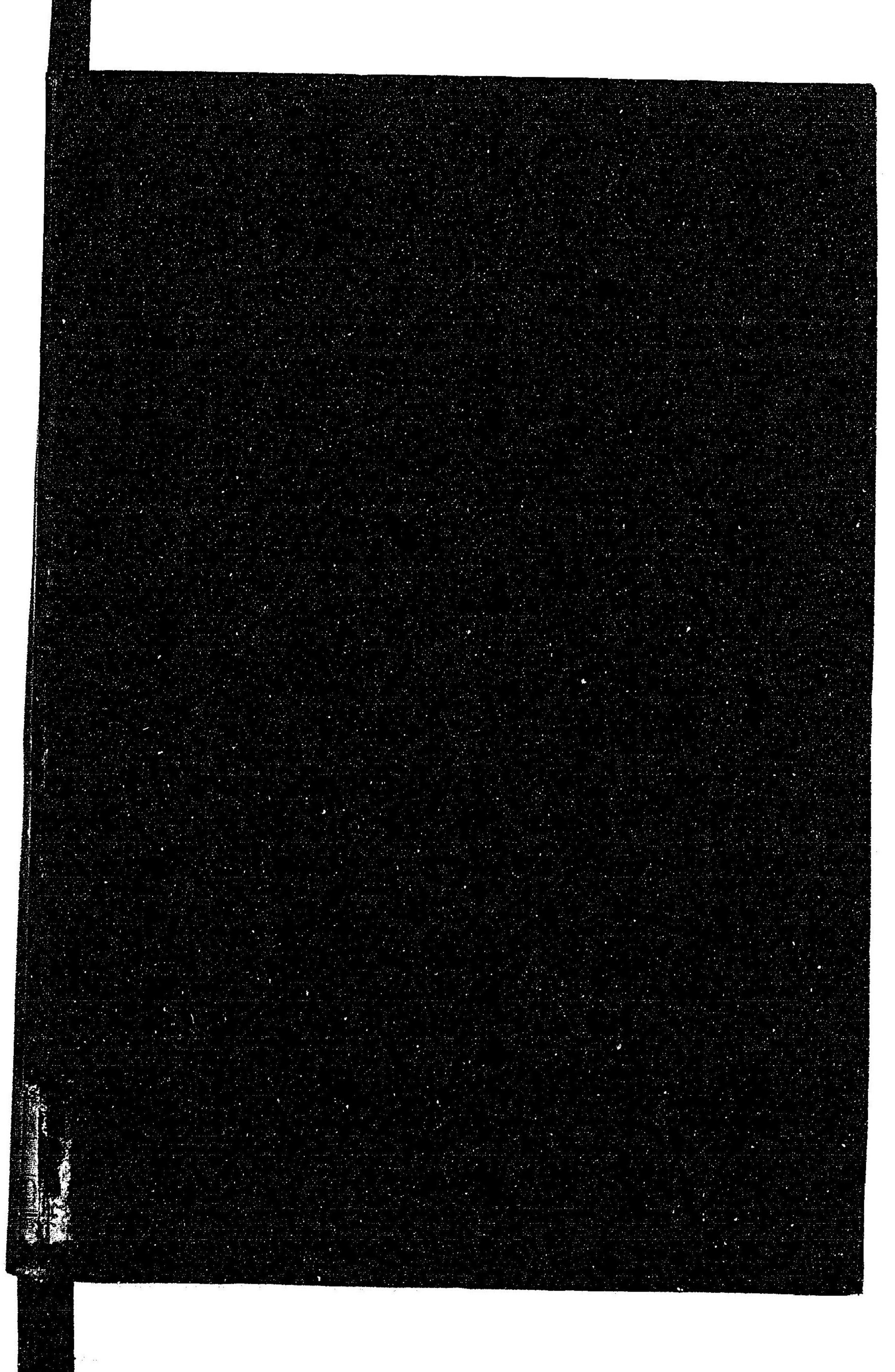
印刷者 久 保 原 淳 二

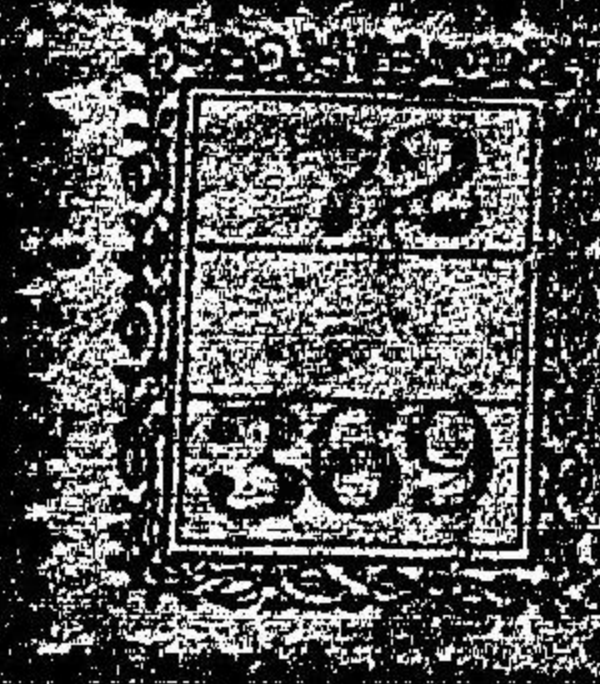
全市全町全番地

印刷所 久 芳 堂 印 刷 所



72
369





065237-000-8

72-369

実験苗木仕立法

松永 幸三郎/著

M42.12

CCE-0066



